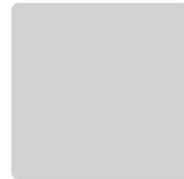
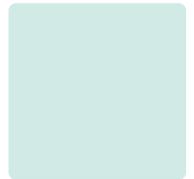
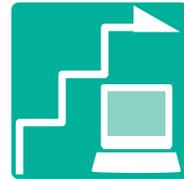


本体各部の名前と役割を説明  
周辺機器を選ぶ、つなぐときのポイントを紹介！  
本体の詳しいスペックを巻末に収録

# パソコン機能ガイド





## このマニュアルの表記について

### 本文中の画面、イラスト、ホームページについて

本文中の画面やイラストは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

### このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、本体の破損の可能性があります。



本体を使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

### このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

**[ ]** **[ ]** で囲んである文字は、操作パネルのボタンまたはキーボードのキーを指します。

**[ ]** **[ ]** で囲んである文字は、リモコンのボタンを指します。

**CD/DVDドライブ**

CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。

**「ばそガイド」**

電子マニュアル「ばそガイド」を起動して、各項目を参照することを示します。「ばそガイド」は、デスクトップのをダブルクリックして起動します。

**「ばそガイド」-  
「アプリケーションの  
紹介と説明」**

「ばそガイド」を起動して、ソフトの操作方法などを参照することを示します。ソフトの名称がわかっている場合は、続けて「50音別目次」をクリックして該当する項目をご覧ください。

**このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています**

下記の表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

<b>本体</b>	表の各モデル(機種)を指します。
<b>CD-R/RW with DVD-ROMモデル</b>	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
<b>TVモデル</b>	テレビ/地上波データ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。

型名	型番	表記の区分		
		CD/DVDドライブ	TV機能	OS
VH300/7A	PC-VH3007A	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	TVモデル (リモコン添付)	Windows XP Home Edition

**このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称**

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、 Windows XP、 Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版 Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版
インターネットエクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0 Service Pack 1
<b>BIGLOBEで インターネット</b>	BIGLOBEインターネット接続ツール
アウトルックエクスプレス、 Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
WinDVD	InterVideo® WinDVD™ 4 for NEC
PCGATE Personal	PCGATE Personal Ver2.1
RecordNow DX	Sonic RecordNow DX



当社は、国際エネルギースタートアッププログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタートアッププログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタートアッププログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

### 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータには電気通信事業法第50条第1項の規定に基づき技術基準認証済みの通信機器が搭載されています。認証番号は次の通りです。

通信機器	認証番号
モデム	A02-0604JP

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用の際は、他国のモードに設定してご使用になりますと電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります。なお、ご購入時の使用国モード(初期値)は「日本モード」となっておりますので、設定を変更しないでそのままご使用ください。

### 高調波電流規制について

この装置の本体は、高調波ガイドライン適合品です。

### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

### 漏洩電流自主規制について

この装置の本体は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

### 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

### レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD/DVDドライブが搭載されています。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® XP Home Edition および本機に添付のCD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

---

Microsoft、MS、Windows、Office ロゴ、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

AMD、AMD ロゴ、AMD Athlon、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。

PS/2 は IBM 社が所有している商標です。

MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。

Hayes は、米国 Hayes Microcomputer Products の登録商標です。

Sonic RecordNow は、米国 Sonic Solutions の登録商標です。

InterVideo、InterVideo ロゴ、WinDVD は InterVideo, Inc. の商標または登録商標です。

BIGLOBE、PCGATE は、日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

---

---

© NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd. 2003

日本電気株式会社、NEC パーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

---

#### 輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

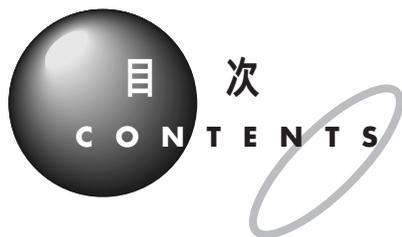
#### Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC\*<sup>1</sup> will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC\*<sup>1</sup> does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

\* 1 : NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

---



**PART**

**1**

このマニュアルの表記について ..... i

**パソコンの使い方 ..... 1**

本体の各部の名称 ..... 2

操作パネル ..... 9

キーボード ..... 11

    キーの名称 ..... 11

    使用上の注意 ..... 12

電源の入れ方と切り方 ..... 13

    電源を入れる ..... 13

    電源を切る ..... 15

    省電力機能について ..... 17

デスクトップってなに? ..... 18

    スタートメニューを見る ..... 20

画面で見るマニュアル「ばそガイド」 ..... 22

    「ばそガイド」の使い方 ..... 22

パソコンの基本操作を学ぶ ..... 23

    「パソコンのいろは」ってなに? ..... 23

    「パソコンのいろは」をはじめる ..... 23

    「パソコンのいろは」の進め方 ..... 26

    「パソコンのいろは」を終わる ..... 27

「ソフトナビゲーター」で目的のソフトを探す ..... 28

    「ソフトナビゲーター」の使い方 ..... 28

    クイックメニューでスマートに ..... 30

ソフトチョイスでいろいろなソフトを試す ..... 31

    「ソフトナビゲーター」で調べる ..... 31

    「ばそガイド」で調べる ..... 31

**PART**

**2**

**周辺機器を使うときのポイント ..... 33**

このパソコンに取り付けることができる周辺機器 ..... 34

POINT 1 パソコンで何をする? ..... 38

POINT 2 買う前に調べることは ..... 39

POINT 3 お店の人に相談して上手に買い物 ..... 40

POINT 4 まず周辺機器のマニュアルを読む ..... 42

POINT 5 周辺機器を動かすために ..... 43

POINT 6 取り外しは手順を守って確実に ..... 45

POINT 7 うまく動かないときの調べ方 ..... 46

**PART**

**3**

**本体につなぐ ..... 47**

USB コネクタ ..... 48

    USB コネクタについて ..... 48

    USB 対応機器を接続する ..... 50

    USB コネクタにプラグを差し込む ..... 51

    正しく接続できたかどうか確認する ..... 53

    USB 対応機器を使用するときの注意 ..... 54

    USB 対応機器を取り外すときの注意 ..... 54

PC カード ..... 55

    PC カードについて ..... 55

    PC カードスロットについて ..... 56

    PC カードをセットする ..... 56

    PC カードを取り出す ..... 59

    PC カードを使うときの注意 ..... 61

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 ..... 62

    光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子について ..... 62

    オーディオ機器を接続する ..... 63

    設定の変更 ..... 63

音声入力端子 ..... 64

    音声入力端子について ..... 64

    オーディオ機器を接続する ..... 64

**PART**  
**4**

**PART**  
**5**

<b>マイクロフォン端子 / ヘッドフォン端子</b> .....	65
マイクロフォンを接続する .....	65
ヘッドフォン端子について .....	67
ヘッドフォンやオーディオ機器を接続する .....	67
<b>映像入力端子</b> .....	68
用意するもの .....	68
外部機器と接続する .....	69
<b>LAN コネクタ</b> .....	70
LAN コネクタを使ってできること .....	70
LAN ケーブルを接続する .....	71
ネットワークの設定 .....	72
<b>モジュラーコネクタ</b> .....	73
<b>本体内部に取り付ける</b> .....	77
<b>メモリ</b> .....	78
メモリを増やすには .....	78
本体で使える増設 RAM サブボード .....	79
増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し .....	80
増やしたメモリを確認する .....	87
<b>ちょっと詳しいパソコン情報</b> .....	89
<b>CD/DVD ドライブ</b> .....	90
使用できるディスク .....	90
ディスクを取り扱うときの注意 .....	91
CD/DVD ドライブを使用するときの注意 .....	91
ディスクのセットのしかたと取り出し方 .....	92
CD-R や CD-RW にデータを書き込む .....	95
CD-R/RW メディアを他の CD-ROM ドライブで 読み込むときの注意 .....	95
<b>省電力機能</b> .....	96
省電力機能について .....	96
省電力機能を使う .....	97

省電力の設定を変える .....	99
<b>BIOS セットアップメニュー</b> .....	100
BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面 .....	100
BIOS セットアップメニューの終了 .....	100
デフォルト値の設定 .....	100
<b>付 録</b> .....	101
<b>仕様一覧</b> .....	102
本体仕様一覧 .....	102
FAX モデム仕様一覧 .....	106
LAN 仕様一覧 .....	107
<b>索 引</b> .....	109



P A R T

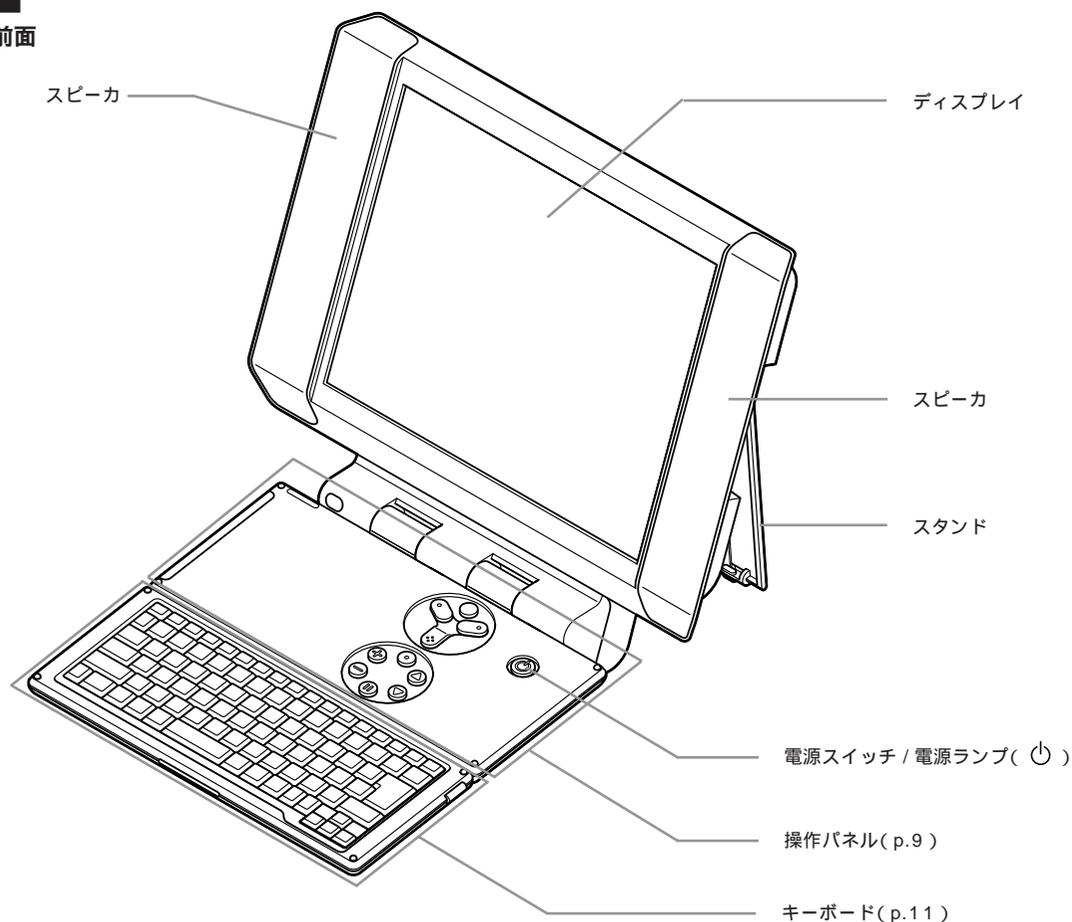
# 1

## パソコンの使い方

ここでは、本体や操作パネル、キーボード各部の名称と役割、電源の入れ方と切り方について説明しています。また、デスクトップやスタートメニュー、パソコンの基本操作が学べる「パソコンのいろは 」、画面で見るマニュアル「ぱそガイド」などの使い方についても説明しています。

# 本体の各部の名称

## 本体前面



### ディスプレイ

文字や絵などを表示するところ。

### スピーカー

テレビやパソコンの音声を出力するところ。

### スタンド

本体を支えるスタンド。

### 電源スイッチ / 電源ランプ (⏻)

本体の電源を入れるスイッチ。

テレビとパソコンの電源が切れているときにここを押すと、テレビとパソコンの電源が同時に入ります。

パソコンの電源を切るときは、Windows XPの「スタート」メニューで「終了オプション」をクリックして「電源を切る」をクリックします。電源を切る/入れる操作は本体に負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。パソコンまたはテレビの電源が入っているときは、ボタン中央のランプが緑色に点灯します。パソコンが休止状態またはスタンバイ状態または電源が切れていて、かつテレビの電源が切れているときは、消灯します。

 **チェック!**

- ・Windows が明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約4秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいます。
- ・停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることができません。

操作パネル

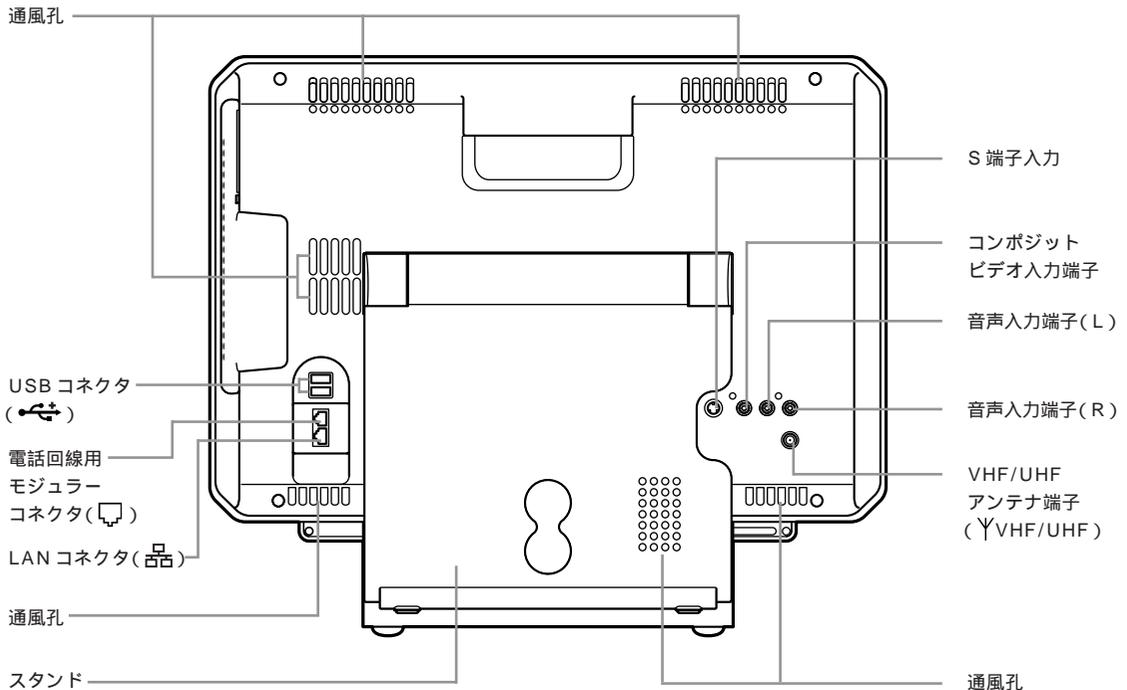
この PART の「操作パネル」(p.9)

キーボード

この PART の「キーボード」(p.11)

## 本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

### ☑️チェック!!

物を置いたりして、通風孔をふさがないようにしてください。

### USB コネクタ (🔌)

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

USB コネクタに接続する周辺機器が本体で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

### 電話回線用モジュラーコネクタ (📞)

電話回線を接続するためのコネクタ。

### LAN コネクタ (📶)

100BASE-TX/10BASE-T 対応のケーブルを接続するためのコネクタ。

### S 端子入力

S端子出力ができるビデオデッキなどの映像を入力するための端子。

### ☑️チェック!!

S 端子出力のある AV 機器を接続してください。

### コンボジットビデオ入力端子

ビデオデッキなどの映像を入力するための端子。

### 音声入力端子 (L) 音声入力端子 (R)

ビデオデッキなどの音声を入力するための端子。

### VHF/UHF アンテナ端子 (∇VHF/UHF)

テレビ放送を受信するためのアンテナ端子。VHF と UHF の共用端子です。

### ☑️チェック!!

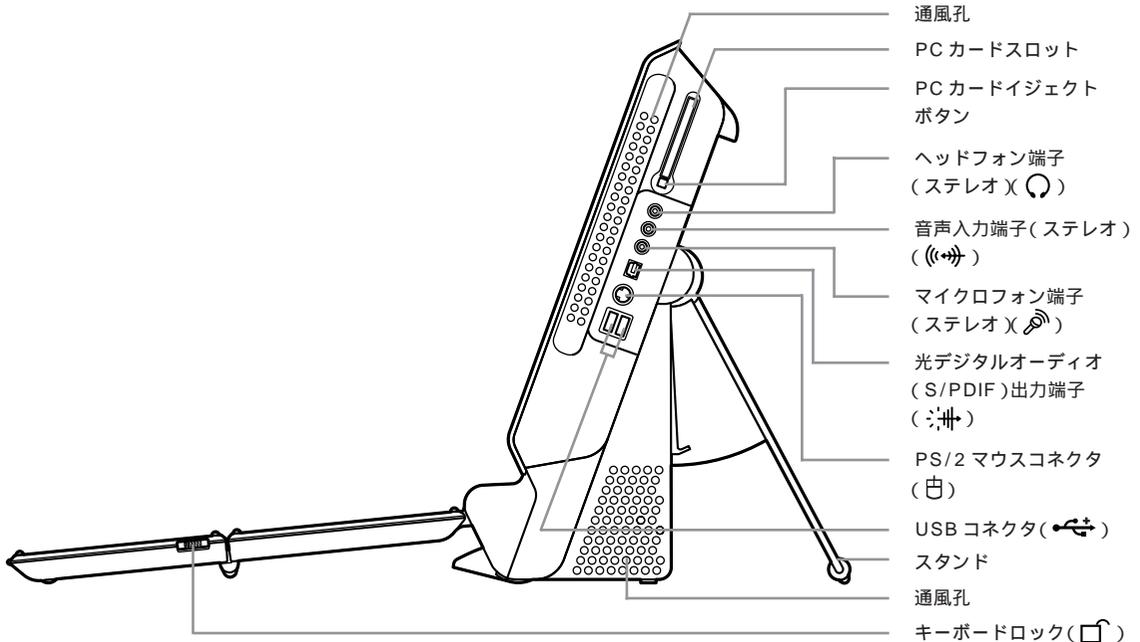
CATVの周波数にも対応しておりますが、ケーブルテレビ会社によりサービス内容に違いがあるため、接続に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。

### スタンド

本体を支えるスタンド。

## 本体右側面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

### ✓チェック!!

物を置いたりして、通風孔をふさがないようにしてください。

### PCカードスロット

PCカードを取り付けるスロット。1スロットあります。PCカードには、メモ리카ードやモデムカード、SCSI対応機器とつなげるためのSCSIカードなどいろいろな種類があります。

### PCカードイジェクトボタン

PCカードをPCカードスロットから取り出すときに使うボタン。

### ヘッドフォン端子(ステレオ)

別売のヘッドフォンを接続するためのミニジャック端子。市販の外付けスピーカやオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するときにも使います。

### 音声入力端子(ステレオ)

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

### マイクロフォン端子(ステレオ)

マイクロフォンを接続するためのミニジャック端子。

### 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

AVアンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続するための端子。この端子の形状は光ミニ端子(角形)です。プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルはよくお確かめになり、ご購入ください。

### PS/2 マウスコネクタ

PS/2マウスコネクタに対応したマウスのケーブルを接続するためのコネクタ。

### ✓チェック!!

PS/2ケーブルを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

#### USB コネクタ()

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

USB コネクタに接続する周辺機器が本体で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

#### スタンド

本体を支えるスタンド。

#### キーボードロック()

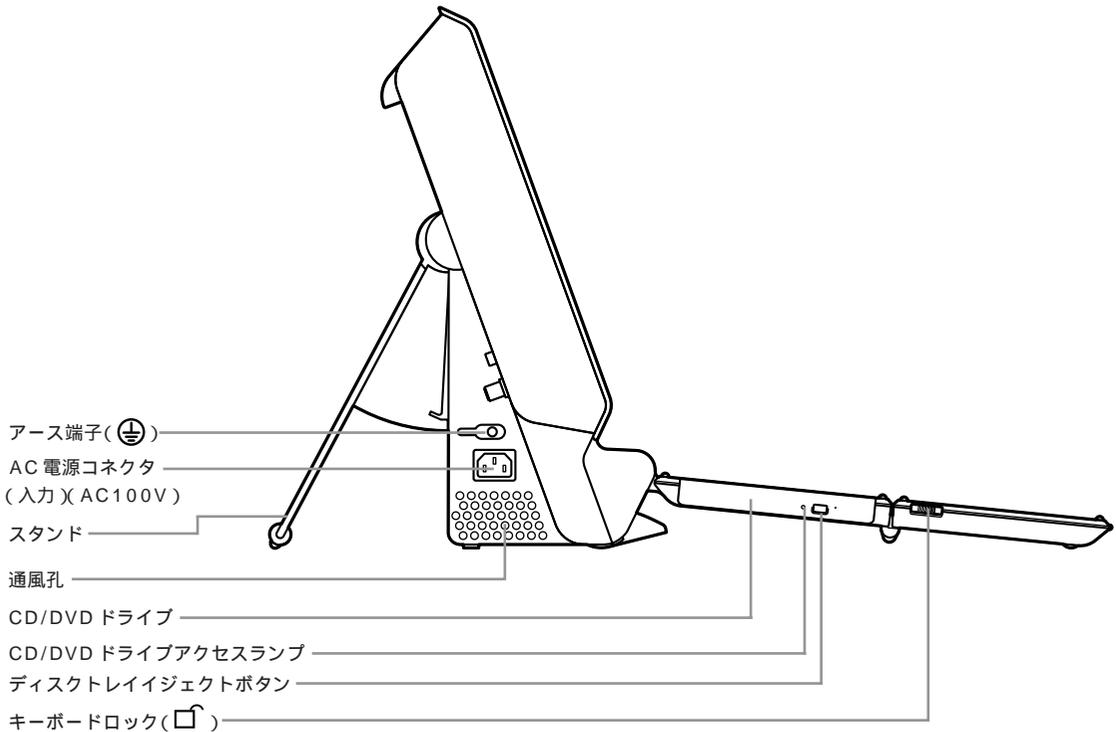
キーボード部分を折りたたんだり、伸ばしたりするときにここを押します。

#### 参照

キーボード部分の折りたたみ方について 『テレビ+PC 使いこなしガイド』

## 本体左側面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



### アース端子(⊕)

アース線を接続するための端子。

### AC電源コネクタ(入力)(AC100V)

ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。

本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

### スタンド

本体を支えるスタンド。

### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。

### ☑チェック!!

物を置いたりして、通風孔をふさがないようにしてください。

### CD/DVDドライブ

DVD-ROMやCD-ROM、音楽CDを入れるところ。またCD-RやCD-RWにデータを記録するところ。

### ☑チェック!!

CD/DVDドライブでディスクを再生したり、ディスクにデータを書き込んでいるときは、操作パネルを折りたたんだり、動かしたりしないでください。なお、ディスクによっては、CD/DVDドライブにセットしたときに自動的に再生がはじまったり、ソフトのインストールが行われることがあります。このようなときは、ディスクを無理に取り出さないでください。ディスクを取り出す前に、CD/DVDドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してください。

### 📖参照

CD/DVDドライブについて PART5の「CD/DVDドライブ」(p.90)

### CD/DVDドライブアクセスランプ

CD/DVDドライブがデータを読み書きしているときに点灯するランプ。

### **チェック!**

ランプが点灯しているときは、パソコンの電源を切ったり、ディスクを取り出したりしないでください。また、操作パネルを折りたたんだり、動かしたりしないでください。

#### ディスクトレイジェクトボタン

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

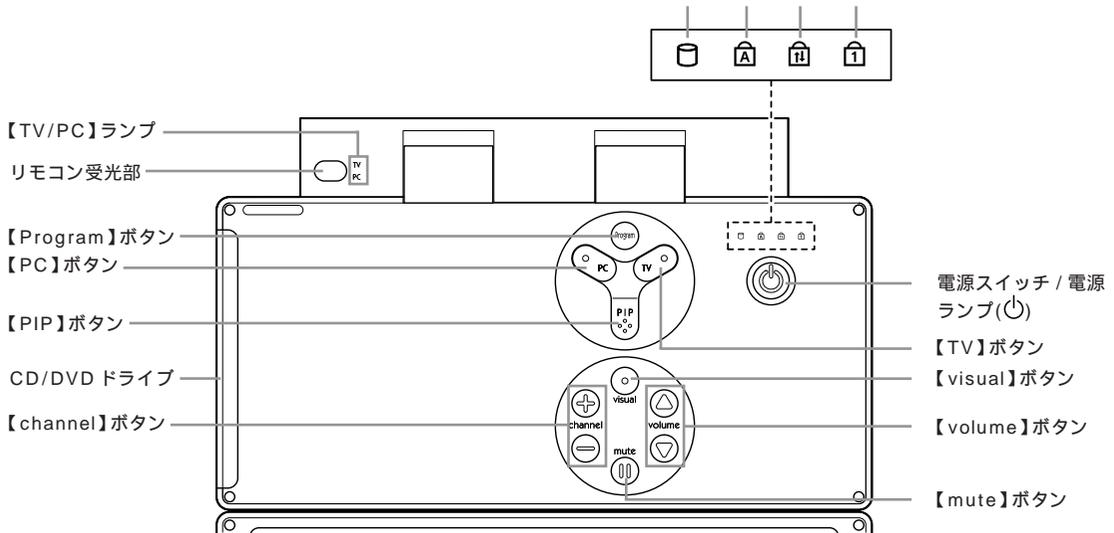
#### キーボードロック()

キーボード部分を折りたたんだり、伸ばしたりするときにここを押します。

#### 参照

キーボード部分の折りたたみ方について 『テレビ+PC 使いこなしガイド』

# 操作パネル



## ✓チェック!

操作パネルには物を置かないでください。故障の原因になります。

### 【TV/PC】ランプ

テレビまたはパソコンの電源が入っているときに点灯するランプ。テレビの電源が入っているときはTVの文字のまわりが緑色に点灯し、パソコンの電源が入っているときはPCの文字のまわりが緑色に点灯します。パソコンがスタンバイ状態のときはPCの文字のまわりがオレンジ色に点灯します。

### リモコン受光部

リモコンからの信号を受信する受光部。

### 【Program】ボタン

パソコンの電源が入っているときに、ここを押すと、SmartHobbyが起動します。

【Program】ボタンには別の機能を割り当てることもできます。詳しくは、「スタート」-「すべてのプログラム」-「Program ボタンの設定」-「Program ボタンの設定 ヘルプ」をご覧ください。

## 📖参照

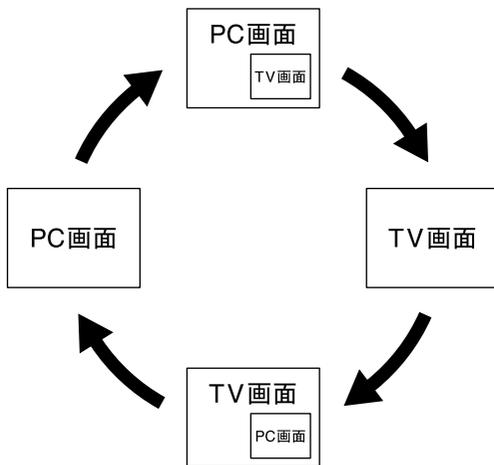
SmartHobbyについて 電子マニュアル「[ぼそガイド](#)」-「アプリケーションの紹介と説明」-「50音別目次」

### 【PC】ボタン

パソコンの電源を入れるときに押すボタン。パソコンの電源が入っているときは、【PC】ボタンのランプは緑色に点灯します。パソコンがスタンバイ状態のときは、オレンジ色に点灯します。パソコンが休止状態のとき、またはパソコンの電源が切れている状態のときは、消灯します。

### 【PIP】ボタン

テレビとパソコンの両方の電源が入っているときには、このボタンを押すたびに、次のように画面が切り替わります。



### ☑️チェック!

テレビの電源のみが入っているときにこのボタンを押すと、パソコンが起動し、パソコンの画面が子画面に表示されます。また、パソコンの電源のみが入っているときにこのボタンを押すと、テレビの電源が入り、テレビが子画面に表示されます。

子画面の表示される位置や表示サイズは、「子画面設定ユーティリティ」で設定できます。

### 📖参照

「子画面設定ユーティリティ」について 電子マニュアル「[ばそガイド](#)」-「アプリケーションの紹介と説明」-「50音別目次」

CD/DVDドライブ  
p.7をご覧ください。

### 【channel】ボタン

テレビ番組を切り替えるためのボタン。【+】ボタンを押すと次のチャンネル(数字が大きいチャンネル)に切り替わります。【-】ボタンを押すと前のチャンネル(数字が小さいチャンネル)に切り替わります。

電源スイッチ / 電源ランプ(🔌)  
p.2をご覧ください。

### 【TV】ボタン

テレビの電源を入れる / 切るときに押すボタン。テレビの電源が入ると、【TV】ボタンのランプと、操作パネル左上の【TV/PC】ランプのTVの文字のまわりが緑色に点灯します。

### 【visual】ボタン

画質を調整するためのボタン。表示モード(PCモード、TVモード、PIPモード)によって、設定できる画質の項目などが異なります。

### 📖参照

表示モード、画質の調整のしかたについて 『テレビ+PC使いこなしガイド』

### 【volume】ボタン

本体から出る音声の大きさを調節できます。【】ボタンを押すと音声が大きくなり、【】ボタンを押すと音声が小さくなります。

### 【mute】ボタン

本体から出る音声を消すことができます。もう一度押すと音声が聞こえるようになります。

### ハードディスクアクセスランプ()

ハードディスクにアクセスしているときに点灯するランプ。

### ☑️チェック!

点灯中は電源を切らないでください。ハードディスクの内容が壊れたり、故障の原因になります。

### キャップスロックキーランプ()

キーボードのキャップスロックキーがロックされているときに点灯するランプ。

### スクロールロックキーランプ()

キーボードのスクロールロックキーがロックされているときに点灯するランプ。

### ニューメリックロックキーランプ()

キーボードのニューメリックロックキーがロックされているときに点灯するランプ。

### 📖参照

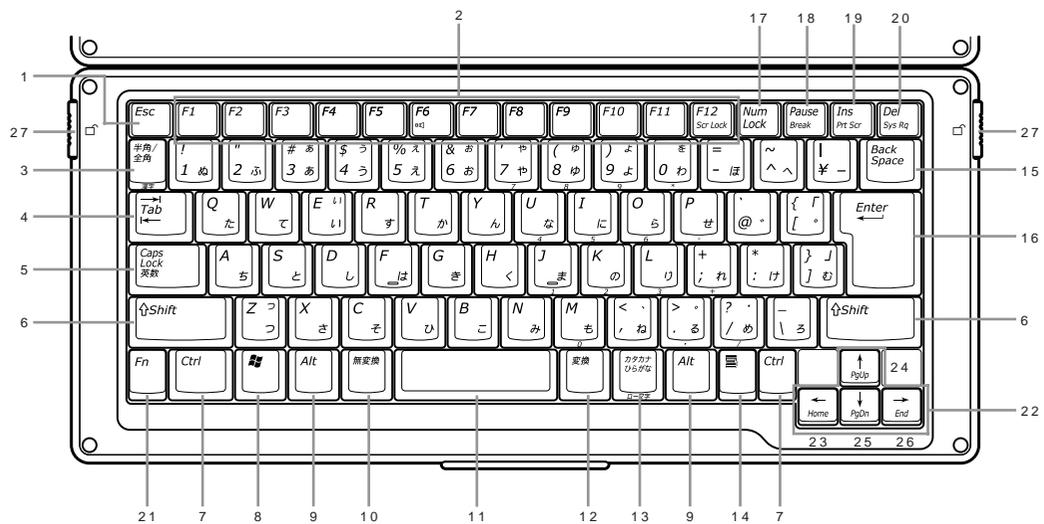
キーのロックについて このPARTの「キーのロック」(p.12)

# キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。

## 参照

- ・キーボードの使い方、日本語入力のしかた このPARTの「パソコンの基本操作を学ぶ」(p.23)
- ・キーボードの設定について 電子マニュアル「パソコンガイド」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「キーボードの設定」、またはWindowsのヘルプ



## キーの名称

- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 1 【Esc】: エスケープキー                         | 14 【】: アプリケーションキー                   |
| 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー                  | 15 【BackSpace】: バックスペースキー           |
| 3 【半角/全角/漢字】: 半角/全角/漢字キー                 | 16 【Enter】: エンターキー                  |
| 4 【Tab】: タブキー                            | 17 【NumLock】: ニューメリックロックキー          |
| 5 【CapsLock/英数】: キャップスロックキー/英数キー         | 18 【Pause/Break】: ポーズキー/ブレイクキー      |
| 6 【Shift】: シフトキー                         | 19 【Ins/PrtSc】: インサートキー/プリントスクリーンキー |
| 7 【Ctrl】: コントロールキー                       | 20 【Del/SysRq】: デリートキー/システムリクエストキー  |
| 8 【】: Windows キー                         | 21 【Fn】: Fn キー                      |
| 9 【Alt】: オルトキー                           | 22 【】: カーソルキー                       |
| 10 【無変換】: 無変換キー                          | 23 【Home/ 】: ホームキー/カーソルキー           |
| 11 スペースキー                                | 24 【PgUp/ 】: ページアップキー/カーソルキー        |
| 12 【変換】: 変換キー                            | 25 【PgDn/ 】: ページダウンキー/カーソルキー        |
| 13 【カタカナ/ひらがな/ローマ字】:<br>カタカナ/ひらがな/ローマ字キー | 26 【End/ 】: エンドキー/カーソルキー            |
|  | 27 キーボードロック                         |

## キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。

ニューメリックロックキーは【NumLock】を押すたびに、キャップスロックキーは【Shift】を押しながら【CapsLock】を押すたびにロック状態を切り替えることができます。

それぞれのキーがロックされているときには、操作パネル右上のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	キー前面に青色で表示されている数字や記号を入力できます。	キー上面の文字を入力できます。
【CapsLock】	アルファベットの大文字を入力できるようになります。	アルファベットの小文字を入力できるようになります。

## アプリケーションキーとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindows キーはWindows で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

### ■ アプリケーションキー ( )

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

### ■ Windows キー ( )

Windows キーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。

Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

【】+【R】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する

【】+【M】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する

【】+【E】 エクスプローラを起動する

【】+【F1】 Windows のヘルプを起動する

【】+【F】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する

【Ctrl】+【】+【F】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する

【】+【Tab】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

### ✓ チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「プリンタとその他のハードウェア」-「キーボード」をクリックし、「キーボードのプロパティ」ウィンドウで行います。また、「日付、時刻、地域と言語のオプション」-「地域と言語のオプション」-「言語」タブの「詳細」ボタンで表示される「テキストサービスと入力言語」ウィンドウでもできます。

### 📖 参照

キーボードの設定 電子マニュアル「 ばそガイド」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「キーボードの設定」

## Fn キーについて

Fn キーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

【Fn】+【F6】 ビープ音のオン/オフを切り替えます。

【Fn】+【F12】 【Scr Lock】の役割をします。

【Fn】+【】 【Home】を押したときと同じです。

【Fn】+【】 【End】を押したときと同じです。

【Fn】+【】 【PgUp】を押したときと同じです。

【Fn】+【】 【PgDn】を押したときと同じです。

### ✓ チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」で行います。「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、文字入力やカーソル点滅の速度の調整、日本語入力システムの設定などができます。

## 使用上の注意

### N キーロールオーバー

N キーロールオーバーとは、複数のキーを押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本体のキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

## 電源の入れ方と切り方

正しい電源の入れ方と切り方を、覚えておきましょう。  
大切なデータや本体を守るために、正しい手順で操作してください。

### ✓チェック!!

電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

### 📖参照

電源スイッチを押しても電源が入らない場合 『困ったときのQ & A』PART1の「電源のオン/オフ」

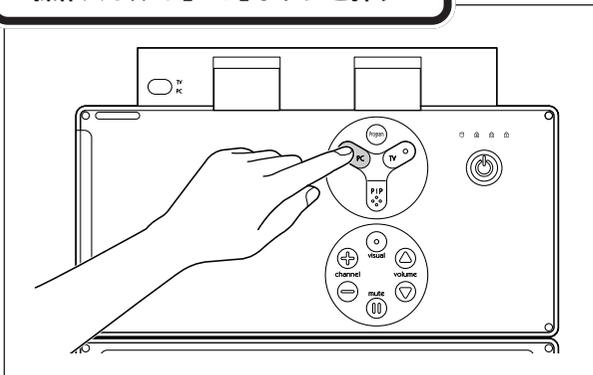
## 電源を入れる

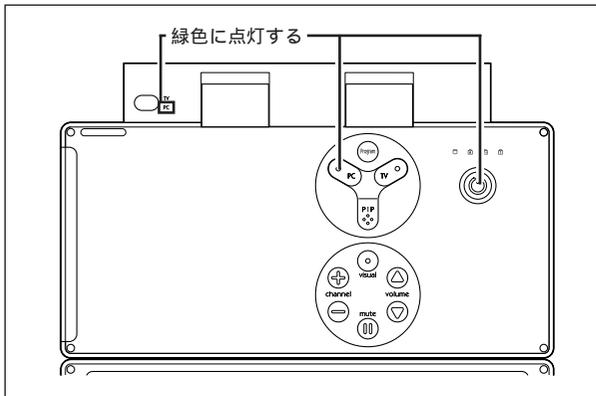
1

他の周辺機器を接続している場合は、それらの電源を入れる

2

操作パネルの【PC】ボタンを押す





【PC】ボタンのランプと電源スイッチのランプ、操作パネル左上の【TV/PC】ランプのPCの文字のまわりが緑色に点灯します。

↓ 1～2分後に次の画面が表示される



ユーザーパスワードの設定をしたり、ユーザーを2人以上登録すると、Windows起動時に、ユーザー選択の画面が表示されるようになります。この場合は、起動するユーザーの名前をクリックし、必要であればパスワードを入力してください。左の画面が表示されます。



## 電源を切る

本体の内部には突然電源を切ってしまうと具合が悪い部品やソフトも入っています。次の手順にしたがって電源を切ると、これらの部品やソフトの動作終了を自動的にチェックして、安全に電源を切ることができます。

1

画面左下にある「スタート」をクリックする



スタートメニューが表示される



2

「終了オプション」をクリックする



### チェック!!

電源を切る前にデータを保存し、ソフトを終了しておいてください。電源を切るときは、操作パネルの電源スイッチを押さずに、ここで説明する手順で操作することをおすすめします。

キーボードやマウスの操作ができなくなったなど、左の方法で電源が切れないときは、操作パネルの電源スイッチを4秒以上押し続けることで電源を切ることができます。ただしパソコンに負担がかかるので通常はつかわないでください。

### 用語

#### スタートメニュー

画面左下にある「スタート」(「スタート」ボタンと呼びます)に矢印を合わせ、マウスの左ボタンを1回押すと、スタートメニューが表示されます。スタートメニューから「終了オプション」を選ぶと、本体の電源を切ることができます。また、ソフトウェアを利用したり、いろいろな設定を行ったりするときにも利用できます。

画面中央に、これが表示される



自動的に本体の電源が切れ、操作パネル左上の【TV/PC】ランプのPCの文字のまわり、【PC】ボタンのランプ、電源スイッチのランプが消灯します。

4

他の周辺機器を接続している場合は、それらの電源も切る

### 電源が切れなくなってしまったときは

「電源を切る」( p.15 ) の手順で電源が切れなくなってしまった場合は、操作パネルの電源スイッチを約4秒以上押しつづけると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切った後に、5秒以上待ってからもう一度「電源を入れる」( p.13 ) の手順 1 ~ 手順 2 の操作を行って本体の電源を入れ、「電源を切る」( p.15 ) の手順で正しく電源を切り直してください。

### ✓チェック!!

この方法で電源を切ると、本体に負担がかかります。本体が起動しなくなる可能性もあります。どうしても電源が切れない場合以外は、この操作は行わないでください。電源を入れ直したときに、「チェックディスク」の画面が表示された場合は、画面の指示にしたがって操作してください。

### 📖参照

強制的に電源を切る 『困ったときのQ&A』PART1の「電源のオン/オフ」

## 省電力機能について

マウスを動かさなかったり、キーボードのキーに触れなかったりする状態が20分以上続くと、自動的に画面が真っ暗になります。これは、無駄な電力を使わないように、省電力機能が働いたためです。  
この場合、次の操作をすることで、画面を表示させる(省電力状態になる前の状態に戻す)ことができます。

1

### マウスを軽く動かす

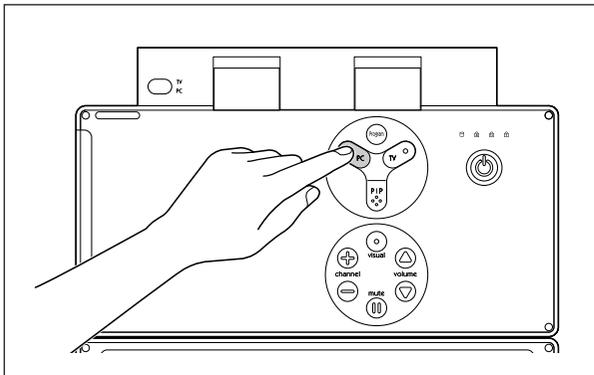
この操作で画面が表示された場合は、ディスプレイの省電力機能が働いていたことが考えられます。



それでも画面が表示されない場合は

2

### 操作パネルの【PC】ボタンを押す



### 参照

省電力機能について 電子マニュアル「[はそガイド](#)」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「省電力機能の設定」、またはPART5の「省電力機能」(p.96)

## デスクトップってなに？

パソコンの画面全体をデスクトップといいます。このデスクトップが、パソコンを使うための舞台になります。Windows XP(ウィンドウズ エクスペー)は、いろいろなソフトを動かすためのベースになるソフトですが、この「デスクトップ」がWindows XPの顔なのです。

### インターネットを始めよう

インターネットプロバイダに入会するためのオンラインサインアップソフトを起動できます。詳しくは、『はじめにお読みください』の「付録 ここからはじめるインターネット&メール」をご覧ください。

### オンラインサービスのご紹介

インターネット電話や121@storeでのインターネットショッピングなど、オンラインサービスの紹介を見ることができます。

### BIGLOBE(ビッグロブ)でインターネット

NECが運営するプロバイダ、BIGLOBEでインターネットをはじめましょう。BIGLOBEのインターネット接続サービスなどの内容を説明しています。また、ここからこれらのサービスに入会したり、インターネット接続の設定を行ったりできます。詳しくは、『はじめにお読みください』の「付録 ここからはじめるインターネット&メール」をご覧ください。

### 「ごみ箱」

いらないファイルやフォルダは、ここに捨てます。

### 「ソフトが見つかるソフトナビゲーター」

ここをダブルクリックすると、目的や名前から使いたいソフトを探せる「ソフトナビゲーター」(p.28)が起動します。

### 「ばそガイド」

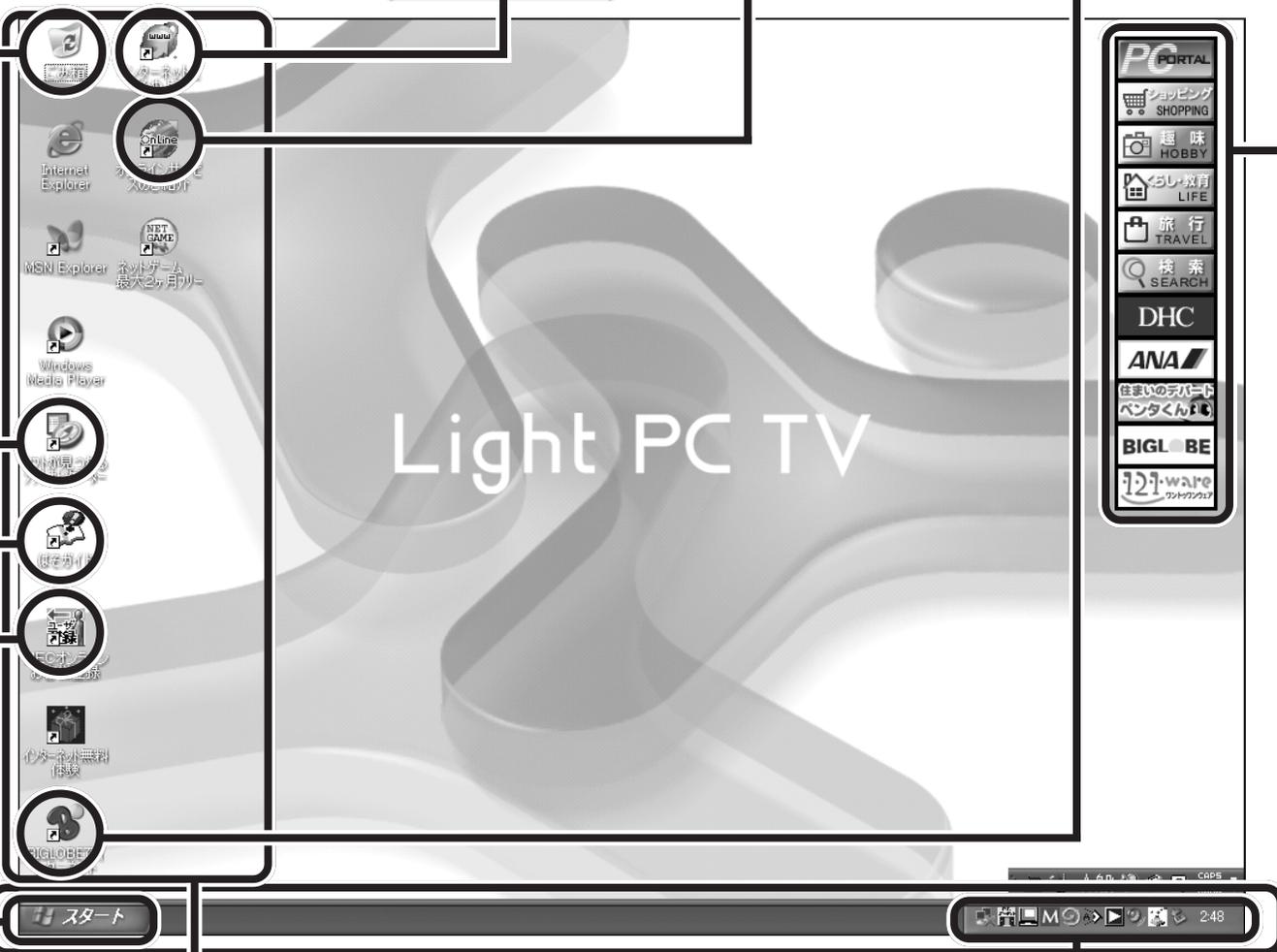
ここをダブルクリックすると、画面で見るマニュアル「ばそガイド」(p.22)を見ることができます。

### 「NECオンラインお客様登録(ユーザ登録)」

ここをダブルクリックしてお客様登録を行うことができます。登録後は、このアイコンは消えます。詳しくは『お客様登録ガイド』をご覧ください。

### 「スタート」

「スタート」をクリックすると、スタートメニューが表示されます。ここから、ソフトを起動したり、いろいろな設定をしたり、ファイルを探したり、Windows XPを終了したりできます(p.20)。



**アイコン**  
ソフトなど、よく使うファイルが小さい絵(アイコン)で表示されます。アイコンをダブルクリックすると、ソフトを起動したり、ファイルを開いたりできます。

**タスクバー**  
起動しているソフトや、開いているウィンドウなどがボタンで表示されます。

**通知領域**  
いろいろな設定のためのアイコンやソフトのアイコンが並んでいます。詳しくは、電子マニュアル「ばそガイド」で、各ソフトの使い方をご覧ください。

**「PCポータル」**  
インターネット上のさまざまな情報への入り口です。詳しくは、電子マニュアル「ばそガイド」-「アプリケーションの紹介と説明」-「50音別目次」をご覧ください。

**チェック!!**  
デスクトップ上のアイコンは、モデルによって異なります。

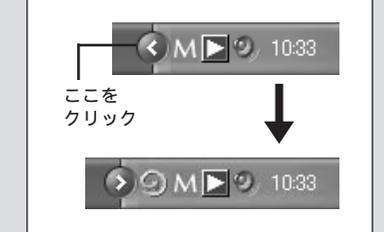
NECが運営するインターネットプロバイダ、BIGLOBEについては、『はじめよう！ブロードバンドインターネット活用ブック』も合わせてご覧ください。BIGLOBEのサービス内容と入会手順が詳しく説明されています。

**参照**  
電子マニュアル「ばそガイド」の使い方 このPARTの「画面で見るマニュアル「ばそガイド」」(p.22)

**チェック!!**  
PCポータルは、インターネット接続の準備ができていない場合、それぞれ次のようなページが表示されます。

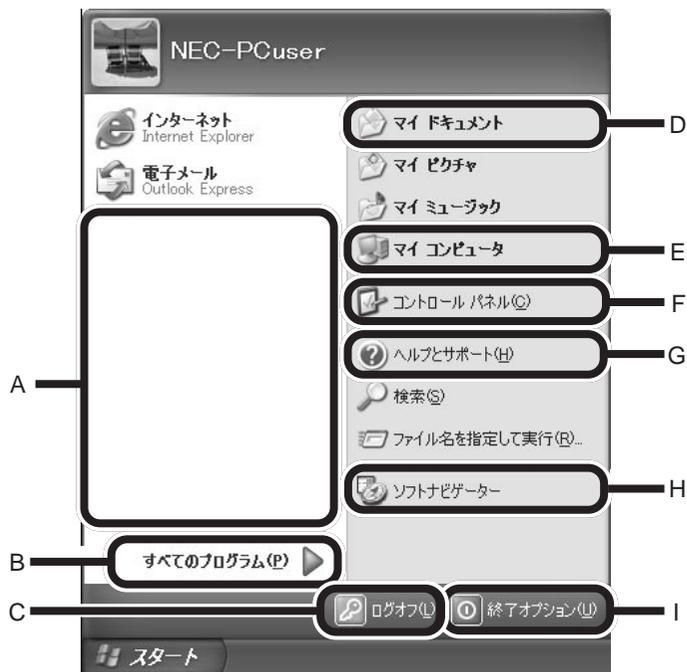
- ・ジャンル別メニューをクリックしたとき、またはポイントしたときハードディスクに保存されている、各ジャンルに応じた企業別のご紹介ページのリンク集
- ・「検索」をクリックしたとき「[PCポータル]BIGLOBEサービスのご紹介」画面
- ・各企業別の絵柄部分をクリックしたときハードディスクに保存されている、各企業別のご紹介ページまたは「[PCポータル]BIGLOBEサービスのご紹介」画面

通知領域のアイコンが見えない場合は、をクリックすると隠れているアイコンを表示できます。



## スタートメニューを見る

「スタート」をクリックすると、スタートメニューが表示されます。スタートメニューから、ソフトを起動したり、本体の設定をしたり、ファイルを探したり、Windowsを終了したりできます。



**A** 最近使用したソフトへのショートカットが自動的に登録されていきます。

**B** **すべてのプログラム(P)**   
本体に入っているソフトを起動できます。

**C**  **ログオフ(U)**  
ログオフまたはユーザーの切り替えができます。

### 参照

ログオフとユーザーの切り替えについて Windowsの「ヘルプとサポート」

D  **マイドキュメント**

ソフトを使って自分が作成したファイルを保存しておく場所です。

E  **マイコンピュータ**

ハードディスクやCD/DVDドライブなど、本体の中身を見ることができます。

F  **コントロールパネル**

画面や音量など、パソコンの設定を必要に応じて変更できます。

G  **ヘルプとサポート**

パソコンを使っていてわからないことがあったり、Windowsの機能について知りたかったりするときにヒントとなる情報があります。

H  **ソフトナビゲーター**

本体に入っているソフトを目的や名前から探し出し、起動できる「ソフトナビゲーター」を表示できます。ソフトの詳しい説明を見たり、ソフトを削除することもできます。

I  **終了オプション**

本体の電源を切るときは、ここをクリックして表示される画面で「電源を切る」をクリックします。また、ここから本体を再起動したり、省電力状態にすることもできます。

Windows XPの場合、マイドキュメントにはいくつか種類があります。ここに表示されるものは、C:\Documents and Settings\<ユーザー名>\My Documents フォルダ内にあるものと同じです(ユーザー名には基本的にはあなたが設定したユーザー名が入ります)。

 **チェック!!**

「ヘルプとサポート」の項目の中には、クリックするとインターネットに接続するものがあります。問題が解決したら必ずインターネットから切断してください。画面右下の通知領域のインターネット接続アイコンを右クリックして表示されるメニューの中から「切断」をクリックしてください。

「インターネットエクスプローラ」「ヘルプとサポート」「ばそガイド」の画面を閉じてもインターネット接続は切断されない場合があります。

 **参照**

「ソフトナビゲーター」の使い方 このPARTの「ソフトナビゲーター」で目的のソフトを探す」(p.28)

 **参照**

省電力機能について 電子マニュアル「ばそガイド」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「省電力機能の設定」、またはPART5の「省電力機能」(p.96)

# 画面で見るマニュアル 「ばそガイド」

本体には、画面で見ることができるマニュアル「ばそガイド」が入っています。「ばそガイド」では、パソコンの基本的な使い方やパソコンに関する設定、アプリケーション(ソフト)の使い方、トラブルが起きたときの対処方法など、幅広い内容を紹介しています。

## 「ばそガイド」の使い方

「ばそガイド」は、デスクトップ上にある  (ばそガイド)アイコンをダブルクリックして起動できます。

「ばそガイド」が起動すると、次の画面が表示されます。

- : 「ばそガイド」を起動したときの画面に戻ります。
- : パソコン用語を集めて説明しています。
- : 表示しているページをプリンタで印刷できます。
- : 「ばそガイド」の使い方を調べることができます。



左側の空欄に調べたい内容をキーボードで入力し、「検索」ボタンをクリックすることで、入力した内容を調べることができます(インターネットについて調べたい場合は、「インターネット」と入力します)。

パソコンの基本操作について説明しています。また、パソコンの基本操作を学習できるソフト「パソコンのいろは」について説明しています。

インターネット無料体験からインターネット接続の設定のしかた、メールの使い方などを説明しています。また、インターネットを使いこなす方法を紹介しています。

アプリケーション(ソフト)の概要、使い方、追加と削除のしかたについて説明しています。目的別 / 50音別の両方でアプリケーション(ソフト)を検索できます。

パソコンに関するさまざまな設定方法を詳しく説明しています。

トラブル事例と解決方法をQ&A形式で紹介しています。

右側の項目に  (矢印)を合わせると、項目の内容がここに表示されます。

困ったときのサポート窓口を紹介しています。

# パソコンの 基本操作を学ぶ

本体には「パソコンのいろは」というパソコン学習ソフトが入っています。  
はじめてパソコンを使う方は、このソフトで基本操作を練習しましょう。

## 「パソコンのいろは」ってなに？

「パソコンのいろは」は、ソフトを操作しながらパソコンの基本を学習するソフトです。日本語の入力方法、Windowsの基本やインターネット(Internet Explorer)、メール(Outlook Express)の基本操作について学習できます。  
インターネットやメール、Windowsの基本操作に慣れていない方は、「パソコンのいろは」で学習してみましょう。



「パソコンのいろは」について 電子マニュアル「ばそガイド」-「パソコンの練習と基本」-「練習」

## 「パソコンのいろは」をはじめる

「パソコンのいろは」をはじめる前に、次のことを確認してください。

### あらかじめ「Outlook Express」の設定を済ませておく

Outlook Expressの設定が済んでいないと、「メールの基礎」の練習を行うことができません。それ以外の練習を行うことはできますが、Outlook Expressの設定を済ませておくことをおすすめします。

### ニューメリックロックキーランプが消灯していることを確認する

操作パネル右上のニューメリックロックキーランプが点灯しているときは、キーボードの【NumLock】キーを押してランプを消灯させてください。



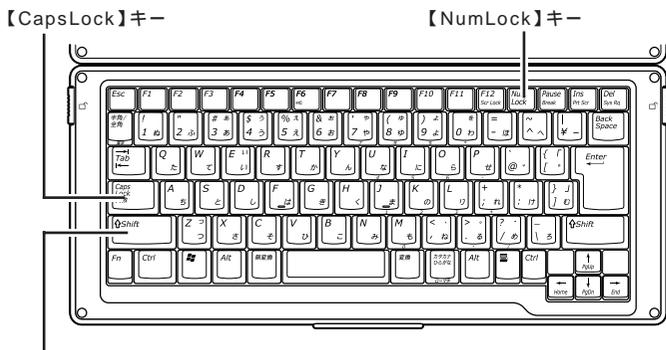
Outlook Expressの設定をする 電子マニュアル「ばそガイド」-「インターネットと電子メール」-「電子メールを使う」



インターネットの設定をされていない方は、「Outlook Express」の設定をする前に『はじめにお読みください』の「付録 ここからはじめるインターネット&メール」をご覧ください。インターネットの設定を行ってください。

## キャップスロックキーランプが消えていることを確認する

操作パネル右上のキャップスロックキーランプ  が点灯しているときは、キーボードの【Shift】キーを押したまま【CapsLock】キーを押してランプを消してください。



【Shift】キー

## 他のソフトを起動しているときは、すべて終了させる

すべて終了しておかないと、「パソコンのいろは」が正常に動作しなくなることがあります。

準備が終わったら、さっそく「パソコンのいろは」をはじめましょう。

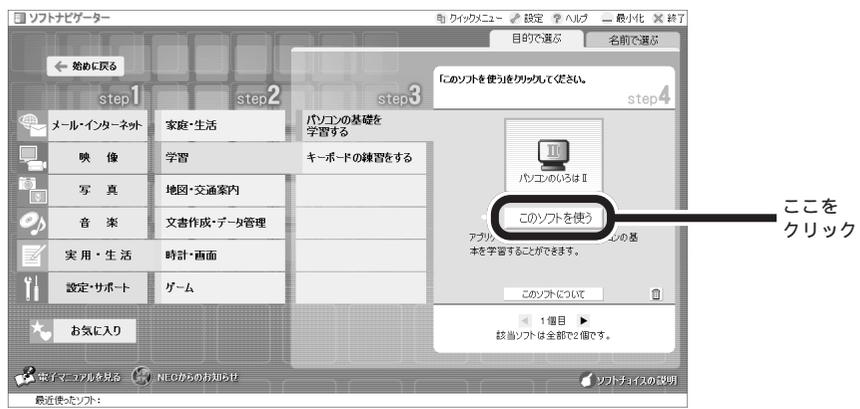
本体には、「ソフトナビゲーター」というランチャーソフトが添付されています。「ソフトナビゲーター」を使うと、使いたいソフトをやりたいこと別に探すことができます。また、インストールされていないソフトでも、はじめて使うときに自動的にインストールしてくれます。ここでは、「ソフトナビゲーター」を使って「パソコンのいろは」を起動する方法を紹介します。

### 参照

「ソフトナビゲーター」について このPARTの「ソフトナビゲーター」で目的のソフトを探す」(p.28)

1 デスクトップの「ソフトナビゲーター」をダブルクリックする  
「ソフトナビゲーター」が起動します。

2 「実用・生活」・「学習」・「パソコンの基礎を学習する」をクリックし、「パソコンのいろは」が表示されていることを確認して「このソフトを使う」をクリックする



「パソコンのいろは」のタイトル画面が表示されます。

練習したいコースをクリックしてね!

**終了** 「パソコンのいろは II」を終了したいときは、ここをクリック

**Windowsの基礎** Windowsの基本操作や日本語入力について学びたいときは、ここをクリック

**インターネットの基礎** ホームページを見るときの基本操作を学びたいときは、ここをクリック

**メールの基礎** 電子メールをやりとりするときの基本操作を学びたいときは、ここをクリック

## 「パソコンのいろは」の進め方

「パソコンのいろは」では、次のような画面でパソコンの基本操作を学びます。

このボタンをクリックすると、現在練習しているコースの目次が表示されます

このボタンをクリックすると、ひとつ先の練習に進みます



このボタンをクリックすると、現在練習している操作手順の先頭に戻ります。続けてクリックすると、ひとつ前の練習に戻ります

- ・ いずれのボタンも、反転表示されているときは、クリックしても次の画面が表示されません。
- ・ 「終了」は、「つぎへ」や「練習スタート」が画面に表示されているときにクリックしてください。

## 「パソコンのいろは」を終わる

「パソコンのいろは」を終了しても、どこまで練習を進めたかが自動的に記録されます。次に「パソコンのいろは」を起動するときは、前回の続きからはじめられます。

### ステップの途中で終了する場合

各ステップの途中で、「パソコンのいろは」を終了できます。練習や説明の途中で終了したときは、コース選択画面で練習したいコースを選んでから、「前回の続きから始める」をクリックすると、中断した練習の最初からはじまります。

1

「終了」をクリックする



2

画面中央に「パソコンのいろは」を終了します。」と表示されるので、「OK」をクリックする

### コース選択画面で終了する場合

1

画面右上の「× 終了」をクリックする

画面右上の「終了」をクリックしても「パソコンのいろは」が終了しない場合は、キーボードの【Esc】を押してください。

# 「ソフトナビゲーター」 で目的のソフトを探す

「やりたいことはあるけれど、どのソフトを使って何ができるのかよく分からない。」そんなときは、「ソフトナビゲーター」があなたの目的に合ったソフトまでナビゲートしてくれます。

## 「ソフトナビゲーター」の使い方

「ソフトナビゲーター」は、デスクトップ上にある (ソフトが見つかるソフトナビゲーター)アイコンをダブルクリックして起動できます。

クイックメニュー：クイックメニュー(p.30)に切り替えることができます。

設定：「ソフトナビゲーター」の設定ができます。

ヘルプ：「ソフトナビゲーター」の使い方を調べることができます。



見つけたソフトをワンタッチで起動できます。インストールされていない場合は、ソフトのインストールが始まります。

不要なソフトをかたんに削除できます。

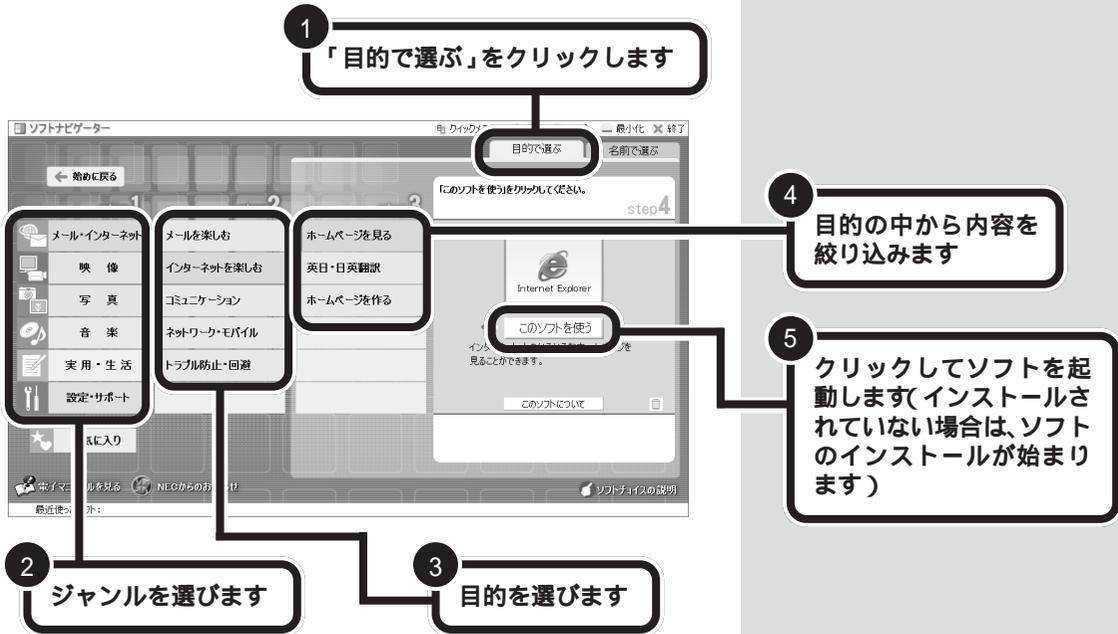
よく使うソフトを「お気に入り」に登録して、自分好みの起動メニューを作ることができます。

ソフトの紹介や詳しい使い方を見ることができます。

「ソフトナビゲーター」では、目的や名前から使いたいソフトを探することができます。

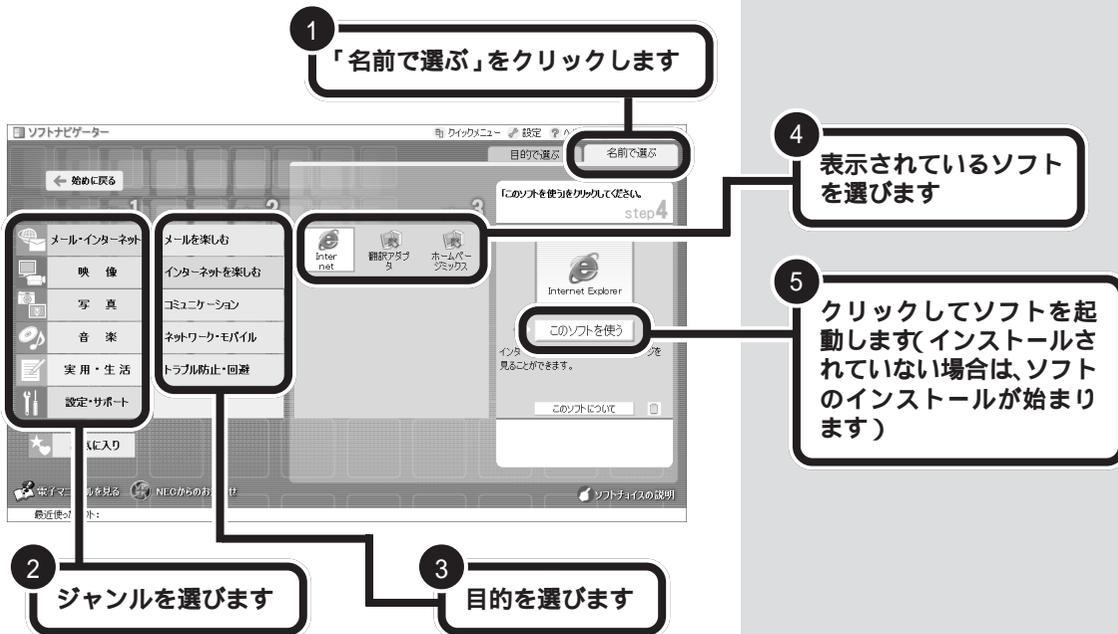
### 目的で探す

やりたいことに合わせてソフトを選びたいときは、こちらの方法で探します。



### 名前で探す

ソフトの名前がわかっている場合は、こちらの方法で探します。



## クイックメニューでスマートに

クイックメニューに切り替えると、メニューが小さく表示されるので邪魔になりません。慣れてきたら、コンパクトサイズのクイックメニューでスマートに使いこなしましょう。画面右上の  をクリックすると、元の大きなサイズで表示できます。



## ソフトチョイスでいろいろ なソフトを試す

本体には、はがき作成、デジタルカメラの画像編集やウイルス対策など、各ジャンルで人気の高いソフトが複数用意されています。いろいろなソフトを試して、気に入ったソフトを選びましょう。

ソフトによっては、機能に制限がある場合がありますが、NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com (ワントゥワンウェア・ドット・コム)」の専用ページでアップグレードソフトを購入すると、市販のものと同じ機能を利用できます。

### 「ソフトナビゲーター」で調べる



各ソフトの詳細説明と、ソフトのご購入については、ここをクリックします

ソフトチョイスの概要説明とソフトチョイス対象のソフト一覧については、ここをクリックします。



参照

「ソフトナビゲーター」について このPARTの「ソフトナビゲーター」で目的のソフトを探す」(p.28)

### 「ぱそガイド」で調べる



「ぱそガイド」の「アプリケーションの紹介と説明」の「ソフトチョイス サービスについて」をクリックすると、ソフトチョイスの概要説明とソフトチョイス対象のソフト一覧を見ることが出来ます。



参照

「ぱそガイド」について このPARTの「画面で見るマニュアル」ぱそガイド」(p.22)



## 2

## 周辺機器を使うときのポイント

周辺機器とは、本体の機能をひろげるために、接続する装置のことです。「プリンタ」や「イメージスキャナ」などが代表的なものです。同じ周辺機器でも「メモリ」は本体内部に取り付けます。また、「デジタルカメラ」「MDプレーヤ」「携帯電話」などは単独でも使えますが、周辺機器として本体に接続すると、データを利用していろいろな楽しみ方ができるようになります。

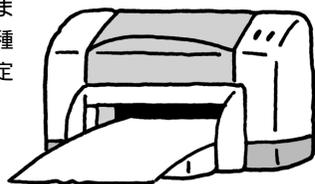
このパソコンに  
取り付けることができる  
**周辺機器**

周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器が本体で使えるかどうかしっかり確認を。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやPART3～4を参考にしてください。

本体には次のような機器が取り付けられます。

**プリンタ**

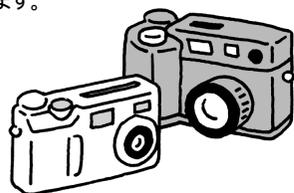
年賀状やグリーティングカードの印刷にはインクジェットプリンタがおすすめ。取り扱いが手軽な上、カラーできれいに印刷できます。USB接続の機種を選べば、接続や設定も簡単です。



**デジタルカメラ**

年賀状やホームページで使う写真を撮るなら、やっぱりデジタルカメラが便利。データを本体に取り込む方法は、機種によっていろいろあります。

- ・PCカードスロット\*
- ・USBコネクタ



\*スマートメディア、コンパクトフラッシュなどは、専用のアダプタ(別売)に取り付けてPCカードスロットにセットすることもできます。

**MDプレーヤ**

オリジナルサウンドをMDに録音して楽しめます\*。

\*詳しくは、MDプレーヤのマニュアルをご覧ください。



各機器の取り付け方はPART3、PART4をご覧ください。

**1**

**フロッピーディスクユニット**

周辺機器を買ったらフロッピーディスクが付いていた、友達からデータをフロッピーディスクで受け取った。そんなときには、外付のフロッピーディスクユニット\*を使おう。



\*フロッピーディスクユニット添付モデルのみ  
(別売のUSB対応フロッピーディスクユニット(PC-VP-WU14)も使えます。)

**ADSL/CATVモデム**

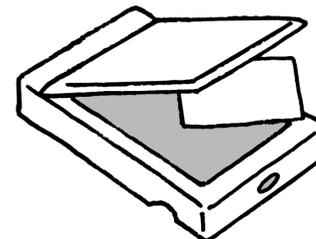
インターネットに高速でアクセスしたいなら、ADSL/CATVモデム\*1を使ってADSLやケーブルテレビ回線に接続。映像やソフトなどの大きなデータも短時間でダウンロードできます。LANコネクタに接続します\*2。



\*1 ADSL/CATV業者によっては、指定された機種しか使えないこともありますので各業者にご確認ください。  
\*2 USBコネクタに接続する機種もあります。

**イメージスキャナ**

絵や写真を本体に取り込むのがイメージスキャナ。取り込んだ絵や写真は年賀状に使ったり、ホームページに載せたりとアイデア次第。USB接続の機種を選べば、接続や設定も簡単です。



こんなときはココを読む!

**どんな周辺機器を  
買えばいい?**

はじめて周辺機器を使う人は

→PART **2**

**どうやって取り付ける?**

本体右側面や背面のコネクタに  
周辺機器を接続するときは

→PART **3**

**本体内部に取り付ける  
ときは?**

本体内部に周辺機器を取り付ける  
ときは

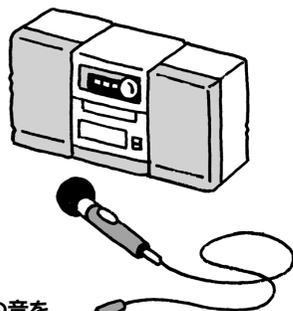
→PART **4**

# 2

## オーディオ機器

マイクroフォンはマイクroフォン端子、スピーカ(アンプ内蔵タイプ)はヘッドフォン端子に接続します。

外部オーディオ機器と本体を接続するときは次のように接続します。



→ 外部オーディオ機器の音を本体に取り込むとき

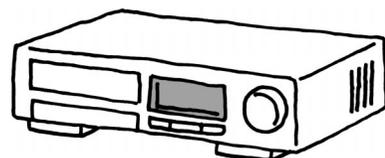
本体	外部オーディオ機器
本体右側面の音声入力端子	音声出力端子 (LINE OUT)

→ 本体の音を外部オーディオ機器で聴くとき

本体	外部オーディオ機器
ヘッドフォン端子	音声入力端子 (LINE INまたはAUX IN)

## ビデオデッキ

ビデオデッキやCATVホームターミナルなどの外部機器をつないで、本体で映像を視聴できます



## 携帯電話



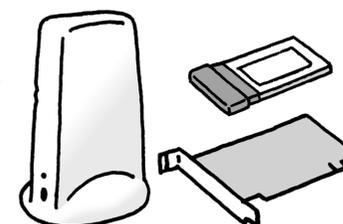
別売の携帯電話接続ケーブルをUSBコネクタに接続することで、メモリダイヤルなどのデータ交換を行うことができます。

\*携帯電話接続ケーブルは、お使いの携帯電話によって異なります。

\*PHSをお使いの場合は、接続できません。

## ワイヤレスLAN

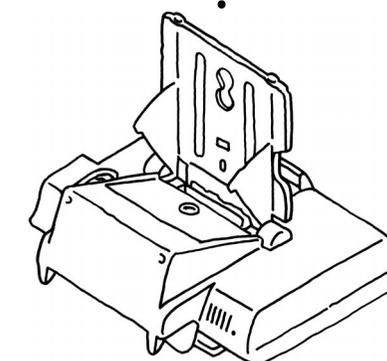
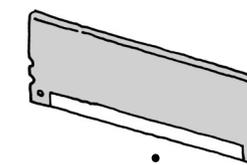
家族で複数のパソコンを持っているなら、データのやり取りやプリンタの共有にはLANが便利。ワイヤレスLANなら長いケーブルを引く必要がないので、たとえばパソコンが一階と二階にあっても簡単にLANが構築できます。本体とワイヤレスLANアダプタの接続方法はいろいろあります。



- ・PCカード
- ・USB

## メモリ

メモリを増やすと、本体の動作に余裕ができます。複数のソフトを同時に使ったり、画像や映像などの大きなデータを扱うときはメモリを増やしましょう。本体内部のメモリスロットに取り付けます。



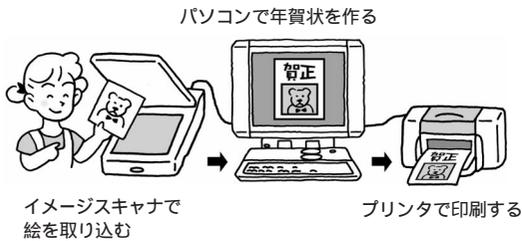
## POINT 1

# パソコンで何をする？

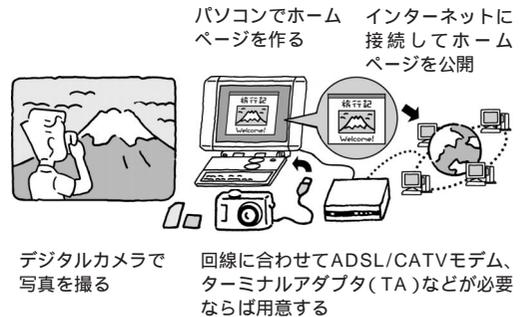
まず、あなたがパソコンを使ってやってみたいことをはっきりさせましょう。次に、それを実現するにはどんな周辺機器が必要か調べてみましょう。周辺機器にはたくさんの種類があり、便利な使い方もいろいろあります。目的に合わせて周辺機器を接続すれば、パソコンは今よりもっと役立つ存在になるはずです。

### パソコンがあれば、こんなことができる

#### 子供が描いた絵を年賀状にしたい！



#### 写真入りのホームページを作りたい！



### コラム

#### インターネット接続と周辺機器

ADSL回線に接続するにはADSLモデム、CATV(ケーブルテレビ)回線に接続するにはCATVモデム、ISDN回線に接続するにはターミナルアダプタ(TA)を使います。お使いの回線の種類に合わせて、それぞれの周辺機器を用意する必要

があります。CATVやADSLでは、接続業者が指定した機種しか使えなかったり、契約後に接続業者から送られてきたりすることが多いので、買う前に各接続業者に確認しておきましょう。

回線の種類については、『はじめにお読みください』の「付録 ここからはじめるインターネット&メール」で紹介しています。

## POINT 2

## 買う前に調べることは

周辺機器を買うときは、お店に行く前にいろいろと調べてみてください。周辺機器を取り巻く技術は進歩が速いので、ほんの数カ月あいたにも新製品が次々に登場します。雑誌やホームページなどで最新の製品情報をざっと調べておくだけでも、お店で製品を選ぶときの参考になるでしょう。

## どうやって調べる？

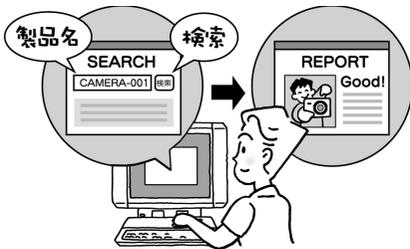
どんな周辺機器があるのか、それぞれの機種の特徴は何か……身近にパソコンに詳しい友人・知人がいれば、その人に聞いてみるのがいちばんです。知りたいことを具体的に聞くことができますし、どんな機種を買えばいいか、あなたの目的に合わせたアドバイスがもらえるかもしれません。また、その人のおすすめのホームページや雑誌を教えてもらえば、自分で調べるときにも役立ちます。

自分で調べるなら、どんな周辺機器があるのか、それぞれの機種の特徴は何か、次のようなところを調べてみましょう。

NECのパーソナル商品総合情報サイト  
121ware.com (<http://121ware.com>)



そのほかのインターネットのホームページ  
検索ページで探す  
お店のホームページで値段を調べる  
使用レポートを探してみる



パソコンや周辺機器の新製品情報を集めたホームページ

新聞社・雑誌社系のホームページなど

パソコン雑誌の新製品特集

カタログを請求する

ホームページ上で見られることもあります。

## このパソコンで使える？

周辺機器によっては、本体で使えないものもあります。まず、本体で使えるかどうかを確認しましょう。ホームページやカタログなどに次の二つことが記載されていれば、ほとんどの場合、本体で使えます。

・ハードウェア(パソコン)の種類 PC98-NX用

・ソフトウェア(OS)の種類 Windows XP用

ハードウェアの種類は「Windows パソコン用」「PC AT 互換機用」なども、たいいてい使えます。

ソフトウェアの種類では、Windows 98やWindows Me、Windows 2000 対応の機器なら使えることもあります。

調べてもよくわからないときは、周辺機器メーカーの問い合わせ窓口に本体のメーカー名(NEC)と型名を伝えて調べてもらえば確実です。

## Qすでに持っている周辺機器を、本体に接続できますか？

A 本体に対応するコネクタがあれば接続できます。ただし、周辺機器がWindows XPに対応していないと使えないこともあります。

周辺機器メーカーのホームページやサポート窓口で調べて、Windows XP対応のドライバ(周辺機器を動かすためのソフト)が入手できれば大丈夫です。

## お店の人に相談して上手に買い物

お店でわからないことがあったら、遠慮せずにお店の人に聞いてみましょう。どの製品が評判がいいとか、どの製品が売れているとか、店頭ならではの情報があるものです。意外なお買得商品をすすめてくれることだってあるでしょう。雑誌やインターネットとはひと味違う、生きた情報を手に入れることができるはずです。

### 初心者だって大丈夫

パソコンのお店という、何か近寄りたいたいと感じる人もいるかもしれません。でも、まずはお店に行って、電子レンジや冷蔵庫を買うような感覚で、店員さんにあれこれ聞いてみましょう。初心者だから、詳しくないからと気にすることはありません。難しそうなパソコン用語や機能の意味も、わからなければ聞けばいいのです。

そんなとき、次のようなことがわかっていれば、話がスムーズに進みます。

### 本体のことを伝える

買いたい周辺機器が本体で使えるかどうかを確認するには、下の欄に型名を書き込んで、マニュアルごとお店に持っていくと確実です。型名は本体背面のシールに記載されています。

型名(型番)は	:	
		(ご自分で記入してください)
本体のOSは	:	Windows XP

このページを見せれば、本体の型名やOSの種類がわかります。

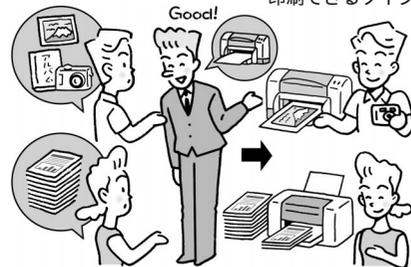
また、この本の付録にある「仕様一覧」のページを見せれば、どんなコネクタがあるかなどの細かい点もその場で確認できるから安心です。

### 何がしたいのか伝える

たくさんの製品が並んでいると、どれも同じように見えたり、反対にいろいろな機能に目移りしたりして迷うことがあります。そんなときも店員さんに聞いてみましょう。専門用語は必要ありません。自分のやりたいことを、できるだけ具体的に伝えるのがポイントです。

たとえば、  
プリンタなら

写真を印刷することが多い  
できるだけ色が鮮やかに印刷できるタイプがいい



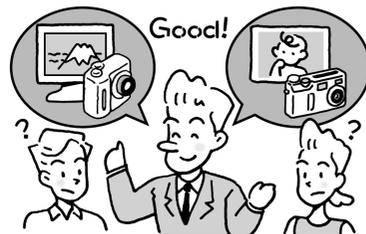
仕事にも使うので  
たくさん印刷する

用紙やインクの補充が楽で、  
印刷が速いタイプがいい

デジタルカメラなら

パソコンの画面で見ると、  
低解像度のタイプが経済的

プリントするなら、高解  
像度のタイプがきれい



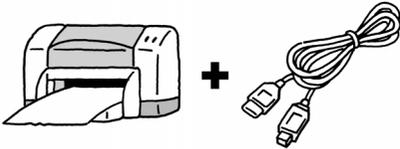
旅先で風景写真を撮って  
ホームページに載せたい

子供の成長の記録を撮って  
プリントしたい

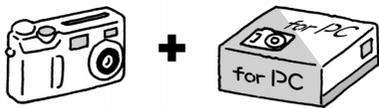
同じように見える機種でも、細かい違いがあるものです。お店には、使い勝手などの評判はもちろん、いろいろな情報が集まります。雑誌で専門的な記事を読まないといけないような違いも、店員さんに聞けばわかりやすく教えてもらえるかもしれません。

最低限必要なものを聞いておく

その機器以外に必要なものがないか、店員さんに聞いておきましょう。必要なものを一度に揃えてしまえば、何度もお店に足を運ばなくて済みます。



接続に必要なケーブルが別売の機器もある



専用のパソコン接続キット(アダプタ類や電源ケーブルなどのセット)が必要なこともある

このほか、周辺機器を使うのに必要なソフトはすべて揃っているかどうか店員さんに聞いておきましょう。ソフトはたいていの場合、周辺機器本体や接続キットに添付されているのですが、なければ別に購入する必要があります。

コラム

消耗品も揃えておこう

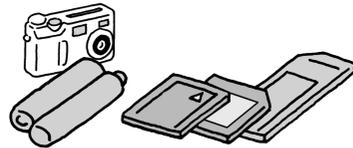
そのほか、周辺機器を使うための消耗品なども用意しておきましょう。周辺機器を扱っているお店なら、必要なものはたいてい揃はずです。たとえば

プリンタなら



用紙やインク(製品添付の用紙やインクは意外に早く使い切ってしまうもの。いざというとき慌てないために。)

デジタルカメラなら



メモ리카ードや予備のバッテリー(撮影する量に応じて、必要なだけのメモ리카ードを用意しておきましょう。また、大事な撮影中にバッテリーが切れても大丈夫なように。)

コラム

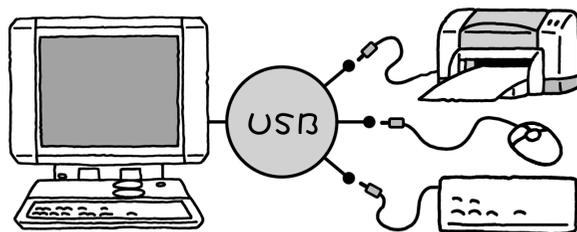
覚えておくと便利な用語

~ USB\*って何? ~

お店に行って周辺機器をあれこれ見ていると、見慣れない用語に出くわすことがあります。たとえば最近では「USB」という用語をよく見かけます。これは、電気製品のコードをコンセントに差し込むように、ケーブルをコネクタに差し込むだけで、周辺機器とパソコンを簡単に接続できるように考えられた規格です。

次のような特徴があります。

- ・一つのコネクタからたくさんの機器を接続できる
  - ・パソコンの電源を入れたまま取り付け/取り外しができる
- USBは現在主流になっている規格なので、お店で周辺機器を選ぶときのために名前を覚えておくとよいでしょう。



キーボード、マウス、プリンタなど

\* USBにはUSB1.1とUSB2.0の2種類の規格があり、2.0の方が高速です。本体のコネクタはUSB2.0に対応しています。

## POINT 4

# まず周辺機器のマニュアルを読む

周辺機器を取り付けるときは、まず先に周辺機器のマニュアルを読みましょう。取り付けの手順や注意点などが書かれているので、そのとおり作業をすれば大丈夫です。本体のコネクタの位置のように、周辺機器のマニュアルに書かれていないことは、このマニュアルで確認してください。

### マニュアルを読むときは

次のような点がポイントです。

作業の順序は？

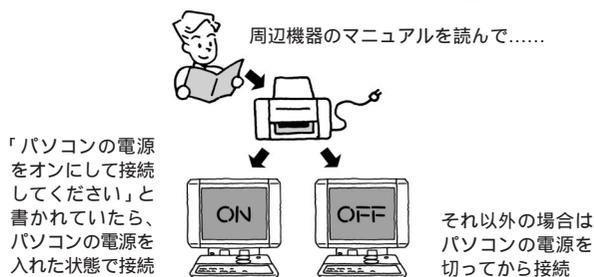
どのコネクタに接続する？

このマニュアルで本体側のコネクタの位置を確認しておきましょう。

接続するとき、本体の電源はオン？オフ？

- ・本体のカバーを開けて内部に取り付ける機器  
必ず本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜く

- ・本体のカバーを開けずに接続できる機器



(注)Windows が休止状態のときは、休止状態のまま接続しないでください。必ず休止状態から復帰させてから、Windows を終了して電源を切ってください。詳しくはPART5の「省電力機能」(p.96)をご覧ください。

取り付けした後、Windows XP で設定が必要？

そのほかに取り付けるときの注意は？

別売のケーブルやキットを使う場合は、それらのマニュアルも読んでください。

### コラム

#### 取り付けはひとつずつ

いくつかの周辺機器を取り付けるときは、ひとつずつ取り付けて、取り付けた周辺機器が動くことを確認してから、次の周辺機器を取り付けるようにしてください。いくつもの周辺機器をいちどに取り付けると、うまく動かなかったときに、どの周辺機器が原因かを調べるのに時間がかかります。



まずプリンタを接続  
正常に動くことを確認

次にスキャナを接続

**Q** ケーブルをコネクタに差し込むだけで、すぐに使えるのですか？

**A** すぐに使える機器もありますが、「ドライバ」をインストールしなければならないこともあります。ドライバは周辺機器を動かすための専用ソフトのことです。一度インストールしてしまえば、機器を使うたびに何か操作する必要はありません。詳しくは次の「POINT5」で説明します。周辺機器によっては、取り付け前にドライバをインストールすることもあります。周辺機器のマニュアルで確認してください。

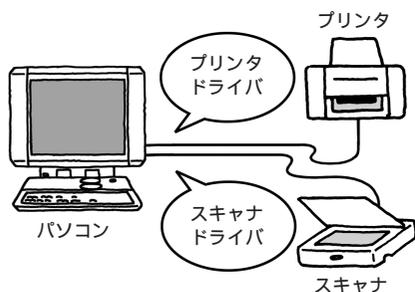
## POINT 5

## 周辺機器を動かすために

周辺機器を取り付けたら「ドライバ」をインストールします。ドライバは周辺機器を動かすためのソフトのことで、それぞれの周辺機器ごとに専用のものを使います。ドライバをインストールすると周辺機器が使えるようになります。周辺機器によっては、ドライバが必要なく、取り付けただけで使えることもあります。

## ドライバはここに気をつける

「ドライバ」は、それぞれの周辺機器を動かすための専用ソフト



取り付けた周辺機器にドライバが必要かどうかは、周辺機器のマニュアルで確認してください。ドライバについて何も書かれていない場合は、取り付けただけで使えると考えていいでしょう。また、周辺機器によっては取り付ける前にドライバをインストールすることもあります。

ドライバを、一度インストールしてしまえば、次からは機器を使うたびにインストールしたり何か操作する必要はありません。

(注)・ドライバは必ずWindows XP用のものを使ってください。Windows XP用以外のドライバをインストールすると、その機器が使えないだけでなく、本体が正常に動かなくなることがあります。

・ドライバは、「ユーティリティ」と呼ばれる別のソフトと一緒にインストールすることもあります。周辺機器のマニュアルで確認してください。

## ドライバのインストールのしかた

USB に対応している機器や PC カードを取り付けると、次のような画面が表示されます。



次のように作業を進めてください。

## 周辺機器にCD-ROMなどが添付されている場合

「一覧または特定の場所からインストールする」を選ぶ  
周辺機器のマニュアルを見ながらインストール画面に指示があれば、指示を読んで Windows を再起動

## 周辺機器に何も添付されていない場合

「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選ぶ  
あらかじめ本体に用意されているドライバがインストールされる  
画面に指示があれば、指示を読んで Windows を再起動

うまくいかないときは、電子マニュアル「ばそガイド」の「トラブル解決」 「Step 2 カテゴリー別Q&A」 「周辺機器」や「追加情報」もご覧ください。

そのほかの機器（USB に対応していない機器）を取り付けたときは、周辺機器のマニュアルを読んで、必要なドライバをインストールしてください。

**Q** 周辺機器を取り付けたのに、前ページの「ドライバのインストールのしかた」に書かれている画面が表示されないのですが？

**A** 何か表示されてすぐに消えた場合、何も表示されない場合は、本体や取り付けた機器が正常に動いていれば大丈夫です。

ただし、次のような場合はそれぞれの方法で確認してください。

メモリを増やしたとき

電子マニュアル  「ばそガイド」の「パソコンの情報」でメモリ容量が増えていることを確認

ハードディスクやDVD-R/RWドライブなどを接続したとき

「マイコンピュータ」に接続したドライブが表示されていることを確認

**Q** 「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示されたのですが？

**A** マニュアルの手順にしたがってドライバを選んだときにこのメッセージが表示された場合は、ドライバがWindows XPに対応していない可能性があります。周辺機器メーカーに「Windows XP対応のデジタル署名が付いたドライバを入手できないか？」メッセージを無視してインストールしても大丈夫か？」とお問い合わせください。

## コラム

### 最新のドライバを使おう

周辺機器のドライバは、製品の発売後に改善され、ホームページなどで新しいものが公開されることがあります。購入した周辺機器メーカーのホームページで「ドライバダウンロード」「バージョンアップ」などと書かれたページをときどきチェックしておきましょう。

### 周辺機器にフロッピーディスクが付いていたとき

本体にはフロッピーディスクドライブがないので、次のよう  
にしてください。

- ・別売のUSB対応フロッピーディスクユニット(PC-VP-WU14)を用意する
- ・メーカーのホームページからインターネットを通じてドライバを入手するか、ドライバのCD-ROM版を入手する(入手可能かどうかや、入手方法は周辺機器のメーカーにお問い合わせください)

## POINT 6

## 取り外しは手順を守って確実に

周辺機器を使わないときに、取り外しておきたいこともあるでしょう。特にPCカードやUSB対応の機器は取り外しも簡単そうに見えます。でもちょっと待ってください。周辺機器によっては、きちんとした手順でソフトを操作してから取り外さないと、本体が正常に動かなくなることもあります。

## 取り外しの手順



USBに対応している機器やPCカードは、原則として本体の電源を入れたままで取り外せません。ただし、画面右下の通知領域にが表示される周辺機器は、次の手順で取り外さないと、本体が正常に動かなくなることがあります。

は隠れていることがあるので、通知領域にあるをクリックして確認してください。



通知領域のをダブルクリックすると、次のような画面が表示されます。



取り外す周辺機器をクリック  
「停止」をクリック



取り外す周辺機器を確認  
「OK」をクリック

のところに「XXXは安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されます。機器を取り外してください。

**Q**「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたのですが?

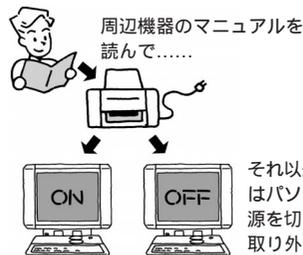
**A** このように表示された場合は、その周辺機器を使用しているソフトがあります。ソフトを終了して、もう一度最初からやり直してください。

## コラム

## 本体の電源はオン? オフ?

・本体のカバーを開けずに取り外せる機器

「パソコンの電源を入れたまま取り外すことができます」と書かれていたらパソコンの電源を入れた状態で取り外し



・本体のカバーを開けて内部から取り外す機器

必ず本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜く

(注) Windows が休止状態のときは、休止状態のまま取り外さないでください。必ず休止状態から復帰させてから、Windowsを終了して電源を切ってください。詳しくはPART5の「省電力機能」(p.96)をご覧ください。

## もう一度取り付けるときは

取り外した周辺機器をもう一度取り付けるときは、ドライバをインストールする必要はありません。ただし、少しのあいだ画面が止まったり、何か表示されたりすることがあります。何か表示された場合は、その指示にしたがってください。これは周辺機器を確認するのに多少時間がかかるため、機器の故障ではありません。少し待てば使えるようになります。

## POINT 7

# うまく動かないときの調べ方

周辺機器がうまく動かないときは、次のような順序で調べましょう。難しいと感じるかもしれませんが、単純な間違いが原因で、自分で解決できることも案外多いものです。どうしてもわからなければ周辺機器メーカーのサポート窓口にお問い合わせることになりますが、基本的なチェックが済んでいれば早く解決できます。

### まずチェック

- 電源は入っている? → 周辺機器の電源を入れて、本体を再起動
- ケーブルは正しく接続した? → コネクタが抜けかかっていないか、コネクタを差し込む向きは正しいか、もう一度確認
- ドライバは正しくインストールした? → **POINT 5** を読んで確認  
周辺機器のマニュアルももう一度確認

### ここもチェック

- 正しい手順で取り外した? → **POINT 6** を確認 → 本体を再起動して取り付け直す
- 省電力状態で取り付け / 取り外しをしていない? → 取り付けられている周辺機器を、省電力状態にする前と同じにして、本体の電源を入れ直す → 正しい手順で取り付け / 取り外しを行う

### もっと調べてみよう

- ・周辺機器のマニュアルのQ&Aで調べる
- ・周辺機器メーカーのホームページで調べる
- ・添付の『困ったときのQ&A』の巻頭で調べる\*1
- ・電子マニュアル「ばそガイド」で調べる\*2



### それでもわからないときは

- 周辺機器メーカーのサポート窓口で電話やメールで問い合わせる
- 本体や周辺機器の型名を正しく伝える
  - 何がおかしいか、できるだけ具体的に伝える
  - それまでに自分で確認したことを伝える

添付の『困ったときのQ&A』の巻頭に「電話サポートを上手に利用するコツ」が記載されているので、参考にしてください。また、『困ったときのQ&A』の「トラブルチェックシート」を使うと便利です。

P A R T

# 3

## 本体につなぐ

ここでは、本体の右側面や背面のコネクタ、スロットに機器を取り付けるときの手順や注意事項を説明しています。

使いたい機器をどのコネクタやスロットに取り付けるか周辺機器のマニュアルで確認して、あてはまる説明を読んでください。

ユーエスビー

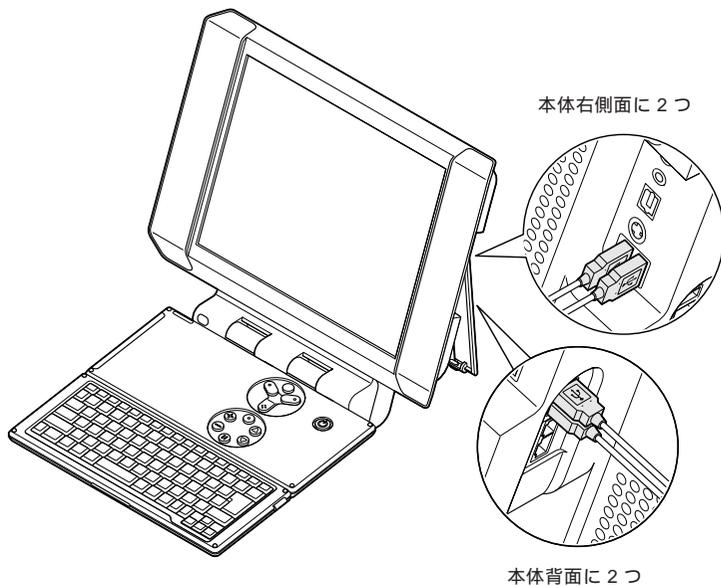
## USB コネクタ

USB 対応機器には、プリンタやイメージスキャナなど様々な種類があります。どの機器でも基本的な接続方法は同じです。

### USB コネクタについて

本体の右側面に 2 つ、本体の背面に 2 つ、USB コネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々の USB 対応機器を接続して、複数の機器を同時に使用することもできます。

#### USB コネクタの位置



#### ✓チェック!!

本体のUSBコネクタは、USB2.0に対応しています。

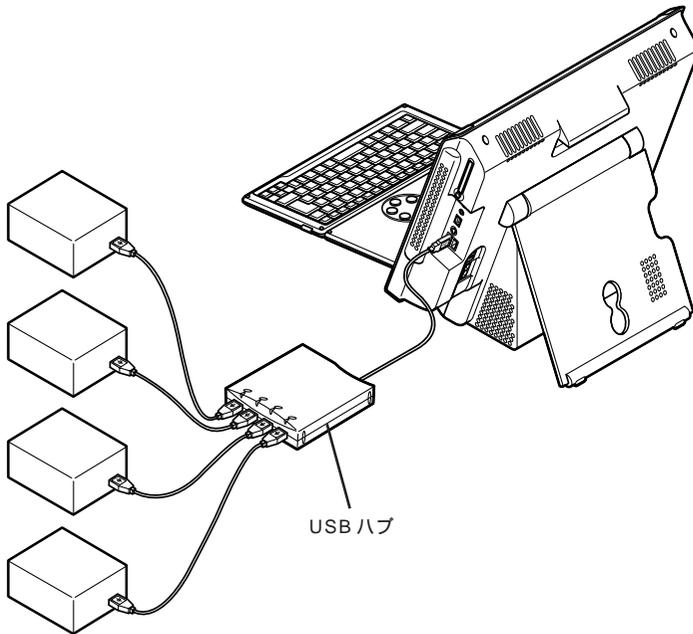
#### 📖参照

各 USB コネクタへの差し込み方  
このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.51)

## USB ハブを使う

標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、市販のUSBハブを接続して、コネクタの数を増やすことができます。

USBハブを何台も使えば、規格上127台(パソコン1台あたり:USBハブの数も含む)までの周辺機器を接続することができます。



### ✓チェック!!

USBハブにUSB対応機器を接続するときは、次の手順で接続してください。

- 1.本体にUSBハブを接続して、認識させる
- 2.USBハブに周辺機器を接続する  
USBハブの詳しい使い方については、USBハブのマニュアルをご覧ください。

### ✓チェック!!

複数のUSB機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

## USB 対応機器を接続する

Windows を起動する

必要に応じて USB 対応機器側の  
設定を行う

USB 対応機器のマニュアルで確認してください。

USB コネクタにプラグを差し込む( p.51 )

本体の USB コネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。

正しく接続できたかどうか確認する( p.53 )

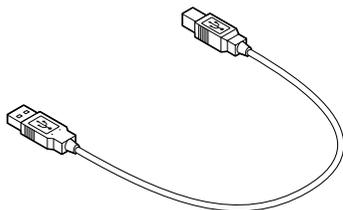
確認のしかたは、機器によって異なります。

設定が終わったら準備完了。  
すぐに使えます。

USB対応機器は、本体の電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら、また取り外す、というような使い方ができます。

### ケーブルについて

USB対応機器を接続するときのケーブルは、両端のプラグの形状が異なります。



平らな方のプラグを本体の USB コネクタに、四角い方のプラグを周辺機器のコネクタに差し込みます。

### 参照

USB対応機器を使用するときの注意  
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.54)

プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

ドライバのインストールが完了していても、別のUSBコネクタにその機器を接続すると、再びドライバのインストール画面が表示されることがあります。そのときは、画面を読んで、もう一度ドライバをインストールしてください。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## USB コネクタにプラグを差し込む

1

**本体の右側面または背面のUSBコネクタに、プラグを差し込む**

プラグを差し込むときの向きは、どこのUSBコネクタを使うかによって異なります。次の説明を参照して、正しく差し込んでください。



プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る



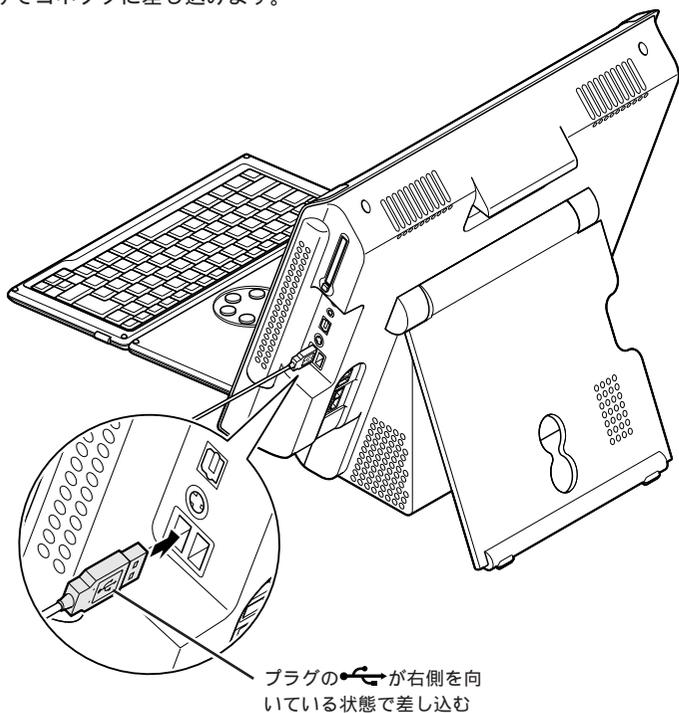
取り付けた機器によっては、画面右下の通知領域に  が追加される

Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、PART2 の「POINT5 周辺機器を動かすために」(p.43)をご覧ください。



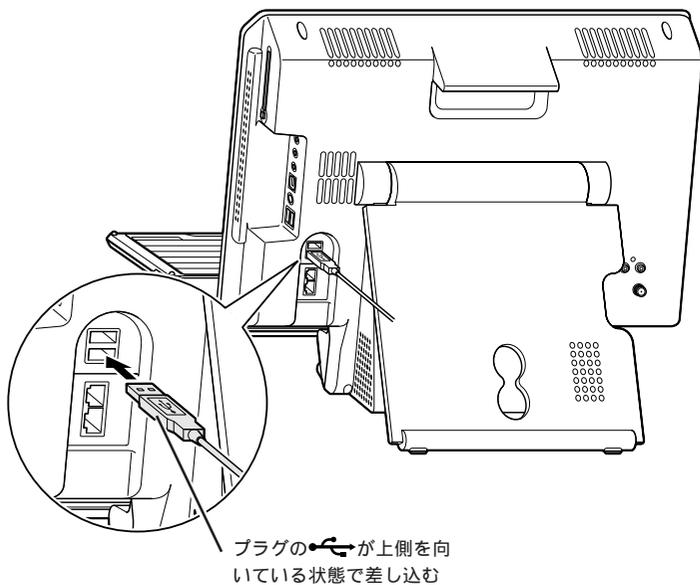
## 本体右側面の USB コネクタを使う

本体右側面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを右に向けてコネクタに差し込みます。



## 本体背面の USB コネクタを使う

本体背面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを上に向けてコネクタに差し込みます。



## ハイパワーデバイスについて

USB 対応機器は、その機器が動作するために必要な電流の取り方によって、次の 3 つのタイプに分かれます。

- ・セルフパワーデバイス  
独自に電源を持っている機器です。機器に電源ケーブルがついています。USB コネクタからは 100mA 以下の電流を消費します。
- ・ローパワーデバイス  
自分では電源を持たない機器です。機器に電源ケーブルはついていません。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、消費するのは 100mA 以下と比較的少量です。
- ・ハイパワーデバイス  
ローパワーデバイスと同様、自分では電源を持たない機器です。機器に電源ケーブルはついていません。必要な電流を USB コネクタから消費して動作しますが、比較的大きな電流(最大 500mA)を消費します。

ハイパワーデバイスの例としては、主にフルカラーモバイルスキャナやフルカラーイメージスキャナ、デジタルビデオカメラなどがあります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

## 正しく接続できたかどうか確認する

接続した USB 対応機器が正しく本体に認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各 USB 対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

機器によっては、続けて別の設定作業が必要になります。USB 対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

### USB 対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタとその他のハードウェア」 「インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する」をクリックします。接続したプリンタ名が表示されていれば、正しく接続されています。

### その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。また、一般に次の方法でも確認できます。「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」 「システム」をクリックし、「ハードウェア」タブから「デバイスマネージャ」ボタンをクリックすると、「デバイスマネージャ」が表示されます。この画面には、機器の接続状態が表示されています。この画面に、接続した USB 対応機器が表示されていれば、正しく接続されています。ただし、その機器のところに赤い「×」や黄色の「！」がついている場合は、機器が正常に動いていないことを表します。

## デバイスマネージャの画面



外付けのフロッピーディスクドライブを接続したときの例

## USB 対応機器を使用するときの注意

- ・ USB コネクタの抜き差しを行うときは、3 秒以上間隔をおいてから行ってください。
- ・ USB デバイスが正常に認識されていない場合は、いったん USB コネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- ・ 省電力状態のときや省電力状態に移行中、復帰中には、USB コネクタの抜き差しを行わないでください。
- ・ USB コネクタには、USB 2.0 対応機器だけでなく、USB 1.1 対応機器も取り付けられます。ただし、USB 2.0 で動作させるには、USB 2.0 対応機器を取り付ける必要があります。
- ・ USB 2.0 対応機器を使用するときは、USB ハブ、USB ケーブルも USB 2.0 に対応したものをお使いください。

## USB 対応機器を取り外すときの注意

USB 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下の通知領域に  が表示されます。このような機器は、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」で機器の使用を停止する操作を行ってから取り外してください。正しく取り外しが行われないと、本体が正常に動作しなくなることがあります。PART2の「POINT6 取り外しは手順を守って確実に」(p.45)をご覧ください、正しい手順で取り外しを行ってください。

### ✓ チェック!!

通知領域にアイコンが表示されていないときは、 をクリックしてください。

ピーシー

## PC カード

PCカードは、クレジットカードサイズの機器です。SCSI (スカジー)カードのように本体の機能を拡張するものから、メモ리카ードのようにデータを保存、移動したりするだけのものまで、様々な種類があります。本体への取り付け、設定が簡単なので、手間をかけずに機能を拡張できます。

### PC カードについて

本体では、PC Card Standard に準拠した PC カードを使えます。PC Card Standard に準拠した PC カードは、カードの厚さによって TYPE 1、TYPE 2、TYPE 3 の 3 種類に分けられます。

- ・TYPE 1 の PC カード 厚さ約 3.3mm
  - ・TYPE 2 の PC カード 厚さ約 5.0mm
  - ・TYPE 3 の PC カード\* 厚さ約 10.5mm
- \* 本体では使用できません。

#### CardBus 対応 PC カードについて

CardBus(カードバス)は、より高速なデータ転送ができるPCカードの規格の一つです。

本体では、CardBus 対応の PC カードを使うことができます。

#### PC カードの取り扱い上の注意

PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温、多湿、低温の場所に放置しない
- ・濡らさない
- ・重いものを載せない
- ・ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- ・曲げない
- ・PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・PC Card Standard に準拠していないカードを、PCカードスロットに無理に押し込まない

#### チェック!!

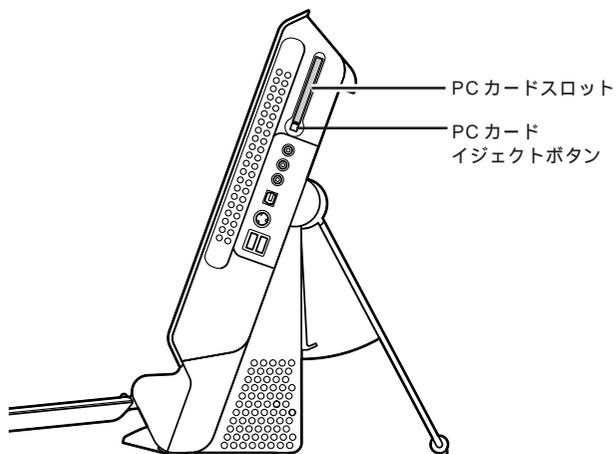
- ・本体ではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- ・省電力状態に対応していないPCカード(LANカードを含む)使用中は、省電力状態にしないでください。購入時には、20分以上何も操作しないと自動的に省電力状態になるように設定されていますので、自動的に省電力状態にならないように設定し直してください。

#### 参照

自動的に省電力状態にならないように設定する PART5 の「省電力の設定を変える」(p.99)

## PC カードスロットについて

本体右側面には、図のように1つのPCカードスロットがあり、TYPE  
またはTYPE のPCカードを1枚セットして使えます。



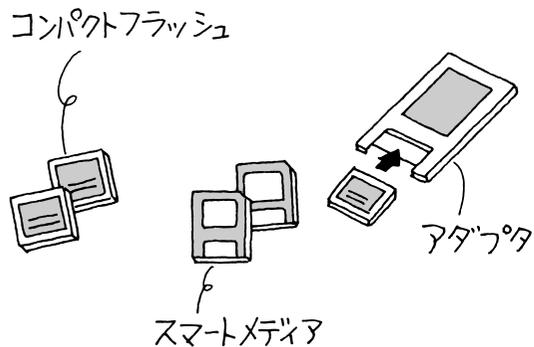
## PCカードをセットする

### セットする前の注意

PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。このパソコンでは、PCカードの表面(ラベルの貼ってある面)を本体背面側に向けて差し込んでください。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。

### デジタルカメラのデータを取り込むとき

デジタルカメラのデータをPCカードスロットを使って取り込むときには、PCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要な場合があります。デジタルカメラに添付のマニュアルで確認してください。



## セットのしかた

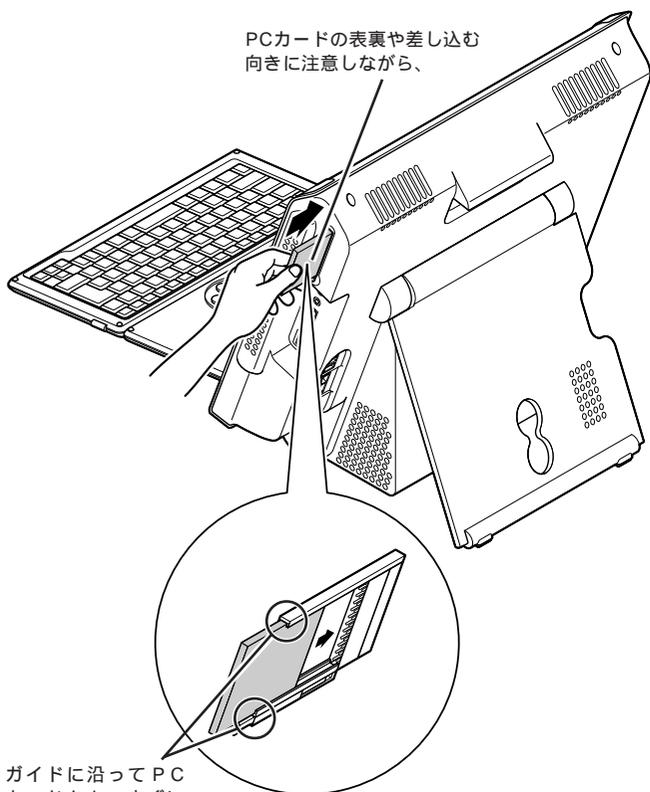
1

本体の電源が入っていること、すべてのソフトが終了していることを確認する

2

用意したPCカードを持ち、PCカードスロットにゆっくりとまっすぐ差し込み、

PCカードの表裏や差し込む向きに注意しながら、



ガイドに沿ってPCカードをまっすぐに差し込む

PCカードは本体の電源を入れたままでも、抜き差しができます。

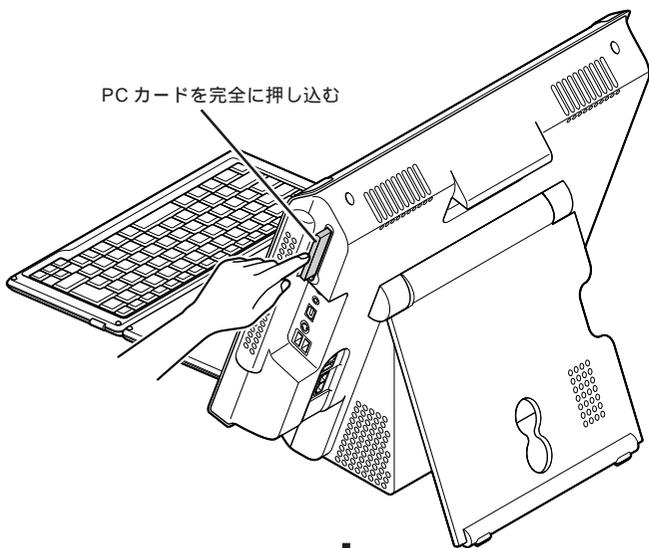
**✓チェック!!**

PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています(p.56参照)。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

3

PCカードの端を押して、PCカードがスロット内にすべておさまるようにセットする

PCカードを完全に押し込む



PCカードの種類によっては、画面右下の通知領域に  が追加される

### PCカードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、本体が自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示をご覧になり操作してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

### ✓チェック!!

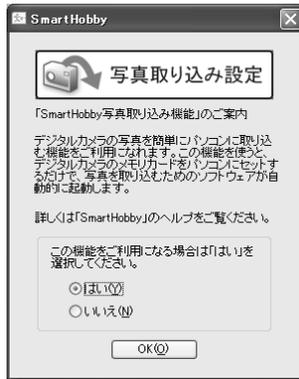
コネクタが破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

### 📖参照

ドライバのインストールについて  
PART2の「POINT5 周辺機器を動かすために」(p.43)

## PC カードのデータを見る

PCカードのデータは、「マイコンピュータ」の中のPCカードのデータが入っているドライブをダブルクリックすると表示されます。  
DCF対応のデジタルカメラで撮影した画像が入ったPCカードをセットすると、次の画面が表示されることがあります。ここで「はい」を選ぶとSmartHobbyが自動起動してPCカードの画像が一覧表示されます。



また、PCカードをセットしたときに「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示された場合は、「フォルダを開いてファイルを表示する」や「イメージのライドショーを表示する」を選ぶと、画像を一覧表示したり、ライドショーで画像を見たりすることができます。



## PC カードを取り出す

1

PART2の「POINT6 取り外しは手順を守って確実に」(p.45)の「取り外しの手順」を行う

PCカードをセットすると、カードの種類によっては、ドライブが追加になります。「マイコンピュータ」などで確認してください。

SmartHobbyの「設定」-「写真取り込み設定」で「OS標準の設定に戻す」を選ぶと、PCカードをセットしたときにSmartHobbyが自動起動しなくなり、「Windowsが実行する動作を選んでください。」画面が表示されるようになります。

ライドショーを終了するときは、マウスを動かすと表示される画面右上のバーでをクリックします。

### 参照

画像の一覧表示、ライドショーについて「ばそガイド」-「パソコンの練習と基本」-「お助け操作集」-「その他」-「画像ファイルの読みこみ機能」

をクリックすると、SmartHobbyが起動します。

### 参照

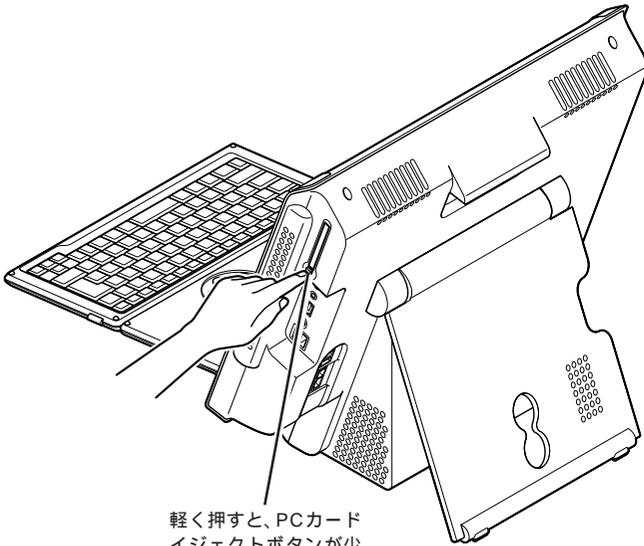
SmartHobbyについて Smart Hobbyのヘルプ

### チェック!!

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、本体が正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

2

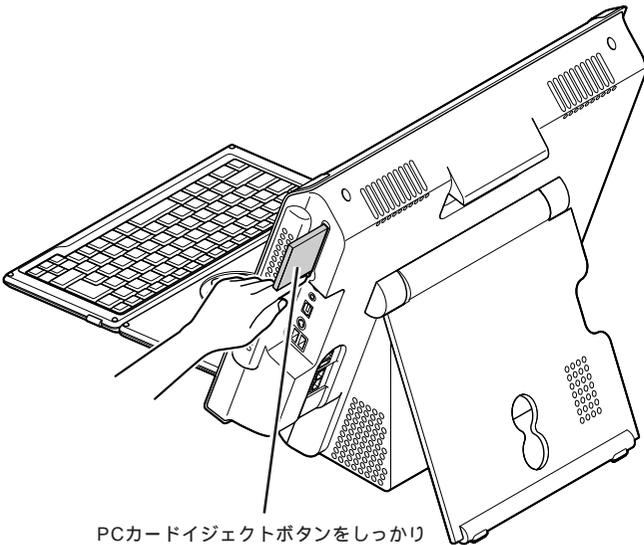
PCカードイジェクトボタンを軽く押す



軽く押すと、PCカード  
イジェクトボタンが少し  
飛び出てくる

3

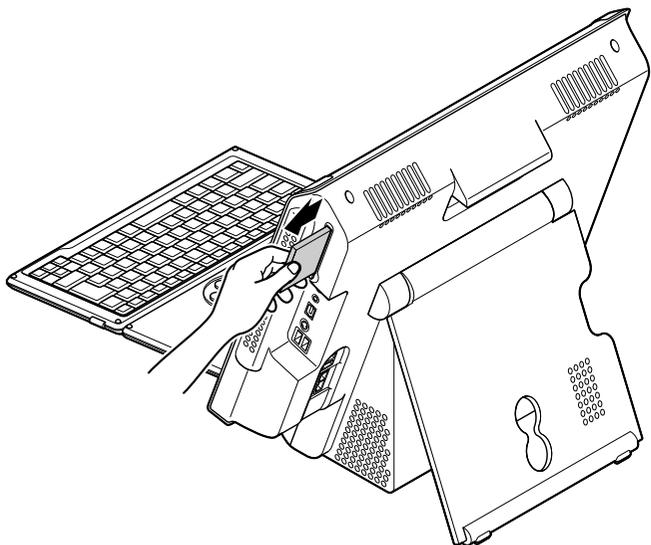
もう一度PCカードイジェクトボタンを押す



PCカードイジェクトボタンをしっかり  
押し込むと、セットされていたPCカー  
ドが少し飛び出す

4

出てきた PC カードを、まっすぐに静かに引き抜く



### PC カードを使うときの注意

- ・ ソフトを使用中は PC カードのセットや、取り出しはしないでください。
- ・ PC Card Standard に準拠していない PC カードは使用できない場合があります。
- ・ 本体では ZV ポート対応の PC カードは使用できません。
- ・ 省電力状態に対応していない PC カード (LAN カードを含む) を使用中は、省電力状態にしないでください。本体は、購入時には 20 分以上何も操作しないと自動的に省電力状態になるように設定されていますので、自動的に省電力状態にならないように設定し直してください。

#### 参照

自動的に省電力状態にならないように設定する PART5 の「省電力の設定を変える」(p.99)

# 光デジタルオーディオ エスピーディーアイエフ (S/PDIF)出力端子

この端子からは、WAVE 音源と MIDI 音源をデジタルで出力できます。

## 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子について

本体右側面には、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子(角形)があります。この端子にAVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して、音を聴くことができます。

### 出力される音源

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル信号で出力されます。

- ・WAVE(ウェーブ)音源
- ・MIDI(ミディ)音源
- ・音楽CDなどのデジタル再生音源

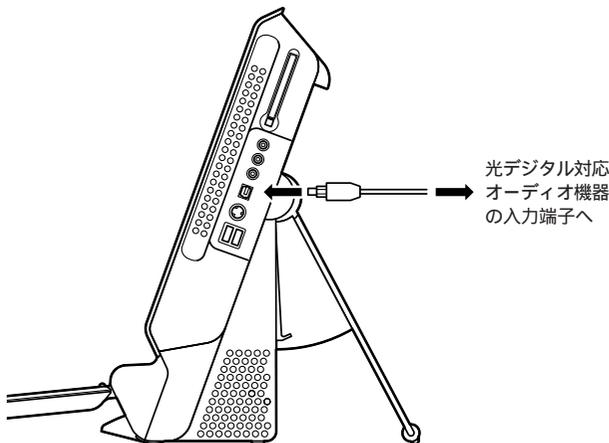
また、ドルビーデジタル5.1チャンネル出力(ドルビーデジタルサラウンドに対応。ただし、ドルビーデジタルによる5.1チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要です)にも対応しています。なお、DTS(ディーティーエス)出力には対応していません。

## オーディオ機器を接続する

### オーディオ機器を接続するときの注意

- ・必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。
- ・デジタルオーディオ入力機器によっては光デジタルに対応していないことがあります。この場合は、別途、変換ユニットが必要になることがあります。
- ・デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- ・この端子の形状は光ミニ端子(角形)です。ケーブルのプラグ形状によっては使用できないものがありますので、ご購入時に確認してください。
- ・本体の光デジタル信号出力のサンプリング周波数は48kHzです。デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときは、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルで確認してください。

### 接続のしかた



### ✓チェック!!

接続の際には、コネクタとプラグの形状が一致するよう、向きを確認してください。

## 設定の変更

光デジタルオーディオ出力端子にオーディオ機器を接続したときには、次のような設定の変更が必要です。

### ・S/PDIF の出力設定の変更

光デジタルオーディオ出力端子からどの音声をデジタル出力するかを設定します。

設定のしかたについて詳しくは、電子マニュアル  「ばそガイド」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「サウンドの設定」をご覧ください。

### ・WinDVD の設定の変更

WinDVD でドルビーデジタル 5.1 チャンネル出力を行う場合は、WinDVD の「デジタル出力」の設定を変更します。設定のしかたについて詳しくは、WinDVD のヘルプをご覧ください。

# 音声入力端子

本体に外部オーディオ機器を接続して、音声信号を本体に入力するときはこの端子を使います。

## 音声入力端子について

本体右側面には、音声入力端子があります。外部オーディオ機器を接続できます。

📖 参照

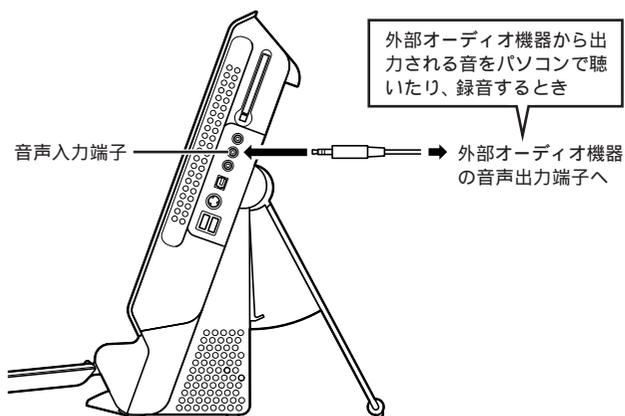
外部オーディオ機器に音声を出力する方法について このパートの「ヘッドフォンやオーディオ機器を接続する」(p.67)

## オーディオ機器を接続する

### ケーブルについて

音声入力端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。

### 接続のしかた



外部オーディオ機器のRCA端子から接続する場合は、ステレオRCAピンプラグ ステレオミニプラグの変換ケーブルまたはコネクタが必要になります。

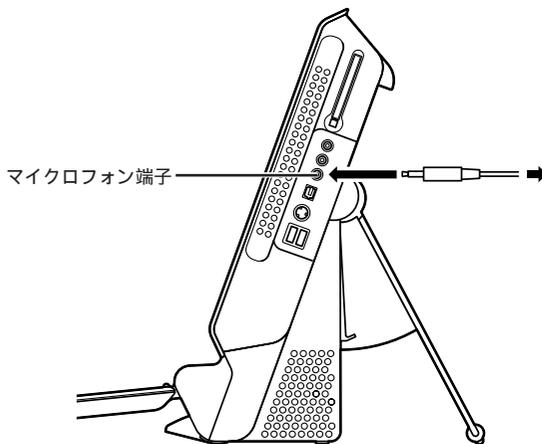
# マイクロフォン端子 / ヘッドフォン端子

マイクロフォンを接続して本体に音を入力したり、ヘッドフォンを接続してパソコンの音を聴いたりするときに使います。

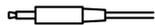
## マイクロフォンを接続する

### 接続のしかた

本体に接続できるのは、ミニプラグ付きのマイクロフォンです。



本体のマイクロフォン端子には、次の2種類のプラグのどちらも接続できます。

  
2極タイプのミニプラグ

  
3極タイプのミニプラグ

### 音量の調節

マイクロフォンからの入力音量は、Windowsの「ボリュームコントロール」の機能で調節します。「ボリュームコントロール」は、「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「エンターテインメント」-「ボリュームコントロール」をクリックして起動できます。

### ハウリングについて

マイクロフォンをスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがありますが、故障ではありません。これをハウリング現象といいます。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロフォンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

## 取り込んだ音声の利用

マイクロフォンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というソフトを使って録音し、ファイルに保存できます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」は、「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」-「サウンドレコーダー」をクリックして起動できます。

## マイクロフォンを使って音声入力をする

別売の日本語音声認識ソフトをインストールして、本体にマイクロフォンを接続すると音声で文字入力や本体の操作ができるようになります。本体に添付されているソフトのなかで、「音声対応」となっているものは、音声で文字入力や操作ができます。詳しくは、ソフトのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

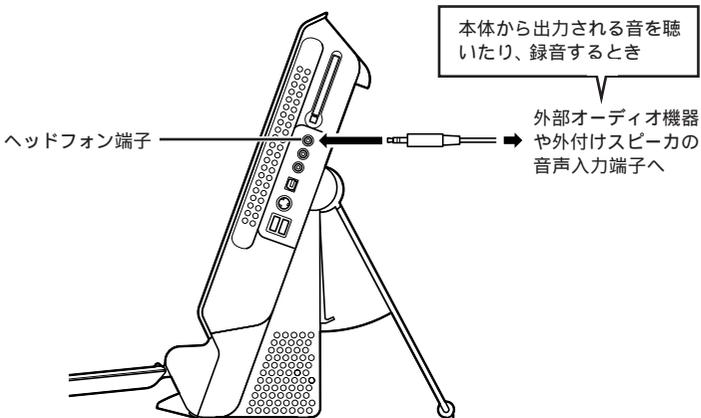
## ヘッドフォン端子について

本体右側面には、ヘッドフォン端子があります。ヘッドフォンを接続してパソコンの音を聴くことができます。また、市販の外付けスピーカを接続して音を聴いたり、オーディオ機器を接続して音声信号(ステレオ)を出力することもできます。

## ヘッドフォンやオーディオ機器を接続する

### 接続のしかた

本体に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドフォンやオーディオケーブルです。市販のヘッドフォンや外部オーディオ機器などを接続できます。お持ちのヘッドフォンやオーディオケーブルのプラグが大きくて入らないときは、電器店などで「ステレオ標準プラグ ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。



### 音量の調節

操作パネルの【  】ボタンで調節します。

【  】ボタンで調節しても音量が小さすぎるような場合は、Windowsの「ボリュームコントロール」を使って調節してください。

### ✓チェック!!

ヘッドフォンやスピーカを接続するときは、音量を小さくしてから接続してください。

### ✓チェック!!

ヘッドフォン端子と外部オーディオ機器を接続するときは、外部オーディオ機器側は、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。

リモコンでも音量の調節ができます。

### 📖参照

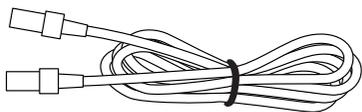
リモコンについて 『テレビ+PC 使いこなしガイド』

# 映像入力端子

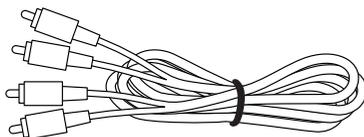
ビデオデッキやCATVホームターミナルなどの外部機器を接続して、本体で映像を視聴できます。

## 用意するもの

本体に接続する機器によって必要なものが異なります。市販のS映像用ケーブル(または映像用ケーブル)と市販の音声用ケーブル(ステレオピンプラグ×2)を使って接続します。



S映像用ケーブル  
(または映像用ケーブル)



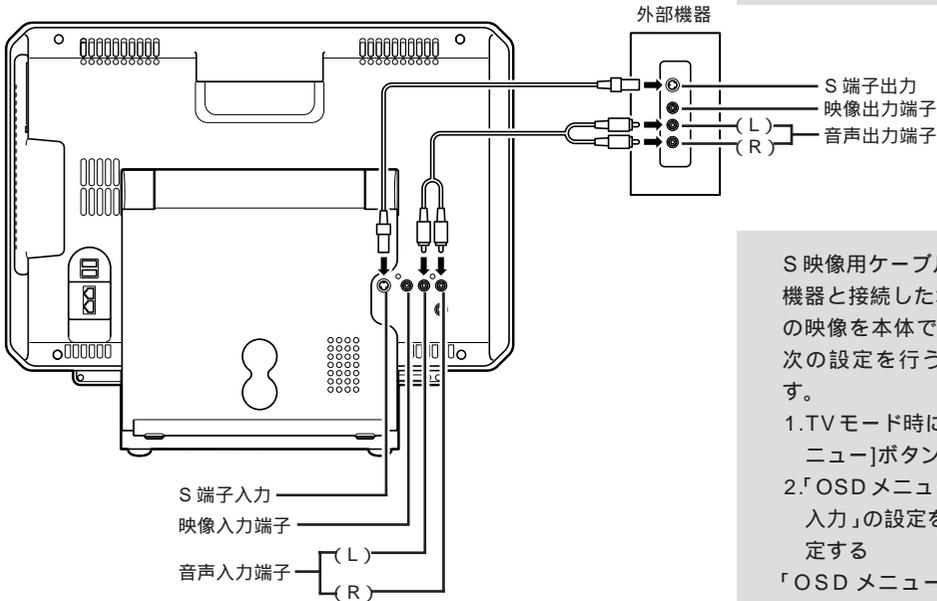
音声用ケーブル  
(ステレオピンプラグ×2)

## 外部機器と接続する

本体の入力端子と外部機器の出力端子を次のように接続します。

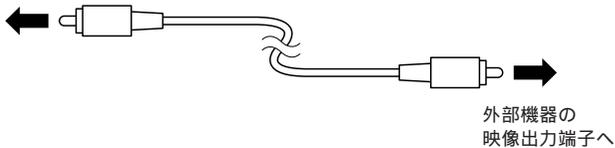
### ✓チェック!!

外部機器の映像を、本体に録画することはできません。



接続する機器にS端子出力がない場合は、通常の映像用ケーブルを使って、本体の映像入力端子と外部機器の映像出力端子を接続します。

本体の映像入力端子へ



S映像用ケーブルを使って外部機器と接続した場合、外部機器の映像を本体で視聴するには、次の設定を行う必要があります。

1. TVモード時にリモコンの[メニュー]ボタンを押す
2. 「OSDメニュー」で、「ビデオ入力」の設定を「S端子」に設定する

「OSDメニュー」については、『テレビ+PC 使いこなしガイド』付録の「OSDメニュー画面」をご覧ください。

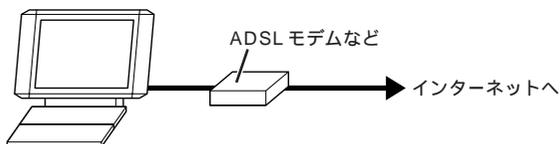
# ラン LAN コネクタ

本体背面には、LAN コネクタがあります。CATV(ケーブルテレビ)モデムやADSL(エーディーエスエル)モデムなどのブロードバンド対応機器を接続したり、複数のパソコンや周辺機器をつないでネットワークを作ったりするときに使います。

## LAN コネクタを使ってできること

接続する機器によって次のようなことができます。

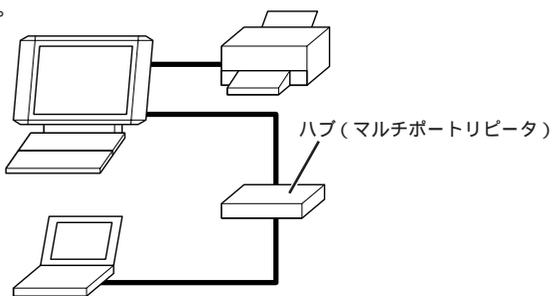
### ブロードバンドでインターネットに接続する



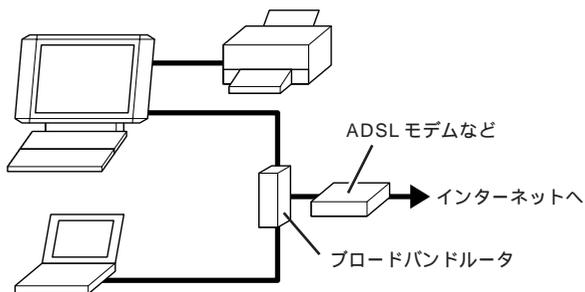
LANコネクタにCATVモデムやADSLモデムなどのブロードバンド対応機器を接続します。

### ネットワークを作る

ネットワークを作ると、プリンタの共有やファイルのやりとりができるようになります。



ハブ(マルチポートリピータ)と各パソコンのLANコネクタを接続します。



市販のルータなどを使ってこのように接続すると、プリンタやファイルの共有だけでなく、複数のパソコンから同時にインターネットに接続することもできます。

### 参照

ブロードバンドについて 『はじめにお読みください』の「付録 ここからはじめるインターネット&メール」

ワイヤレスLANは、左のような例で、各機器との接続を無線にしたものです。本体に市販のワイヤレスLANアダプタを取り付けて、ワイヤレスLANに対応した周辺機器を使います。

## LAN ケーブルを接続する

LAN コネクタと各機器との接続には、LAN ケーブルを使います。

### 接続するときの注意

- ・LAN ケーブルは別売です。
- ・LAN ケーブルを購入する際は、接続する LAN や機器の規格にあったケーブルを購入してください。
- ・100BASE-TX で LAN に接続するには、カテゴリ 5 の LAN ケーブルが必要です。

### 接続のしかた

1

LAN ケーブルのプラグを、向きに気をつけて本体背面の LAN コネクタ(品)に接続する

2

ADSL モデムやハブ(マルチポートリピータ)などに、LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続する

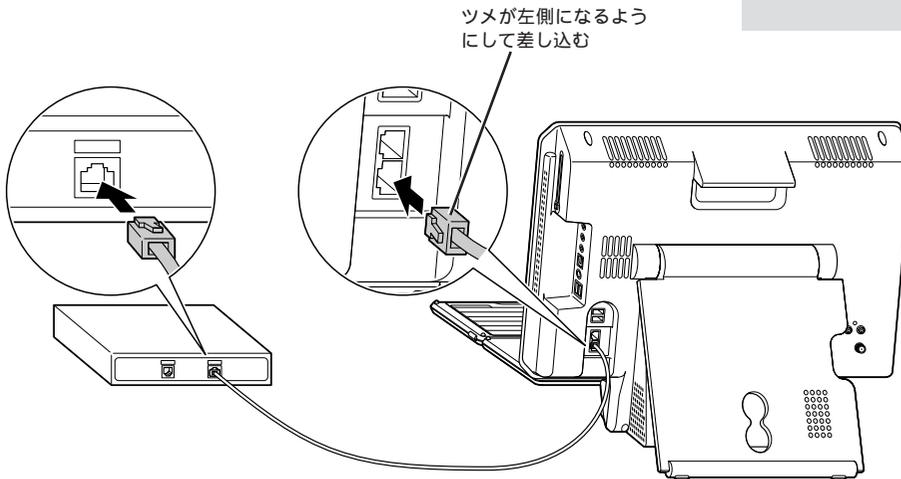
### ✓チェック!!

LAN ケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの 2 種類があります。目的によって使うケーブルが違いますので、購入するときは注意してください。

- ・本体とハブをつなぐ場合: ストレートケーブル
- ・本体と ADSL モデムをつなぐ場合: ストレートケーブル
- ・本体と他のパソコンを直接つなぐ場合: クロスケーブル

詳しくは、各 ADSL 接続業者にお問い合わせください。

ハブの接続について詳しくは、ハブに添付のマニュアルをご覧ください。



## ネットワークの設定

### 設定のしかた

ADSL モデムや CATV モデム、ルータを使ってインターネットに接続する場合の設定方法は、各機器のマニュアルをご覧ください。

ネットワークの設定は、次の方法でできます。

- ・「ネットワークセットアップウィザード」で設定する  
「スタート」「コントロールパネル」「ネットワークとインターネット接続」「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックすると、「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。画面の説明を読んで、本体の接続環境にあった設定をしてください。
- ・「ホームネットワークアシスタント」で設定する  
本体に添付されている「ホームネットワークアシスタント」を使うと、ホームネット(家庭内 LAN)を利用するために、本体や、本体に接続する機器の設定ができます。

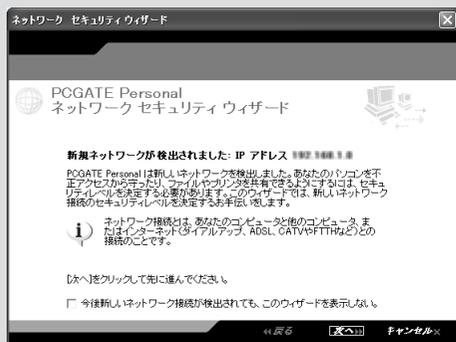
### ネットワーク上の自分のコンピュータを確認する

ネットワークの設定が正しく行われると、「マイネットワーク」に自分のコンピュータ名が表示されます。「スタート」「マイ コンピュータ」の「マイ ネットワーク」をクリックして、確認してください。

### 「PCGATE Personal ネットワーク セキュリティ ウィザード」画面が表示されたら

インターネット接続の設定やネットワークの設定を行うと、次の「PCGATE Personal ネットワーク セキュリティ ウィザード」が表示されることがあります。

「PCGATE Personal」は、本体へのインターネットを経由した不正アクセスを防ぐことができるソフトです。インターネットやネットワークに接続したときに、この画面が表示されることがあります。この画面では、ネットワークのセキュリティレベルを設定できます。



### 参照

- ・ LAN の設定について 電子マニュアル「ばそガイド」-「パソコンの設定」-「ネットワークの設定」-「LAN の設定」
- ・ 「ホームネットワークアシスタント」について 電子マニュアル「ばそガイド」-「パソコンの設定」-「ネットワークの設定」-「ホームネットワークアシスタント」

### 参照

「PCGATE Personal」の設定のしかたについて 電子マニュアル「ばそガイド」-「インターネットと電子メール」-「インターネットを使いこなす」-「不正アクセスからパソコンを守るには」

## モジュラーコネクタ

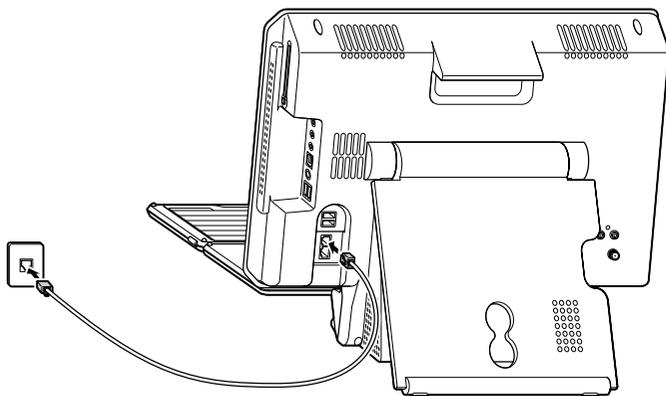
本体内蔵のFAX モデムを使って、ダイヤルアップでインターネットに接続したり、FAXを使うときには、ここでの操作を行なって、電話回線に接続する必要があります。

### 用意するもの



モジュラーケーブル

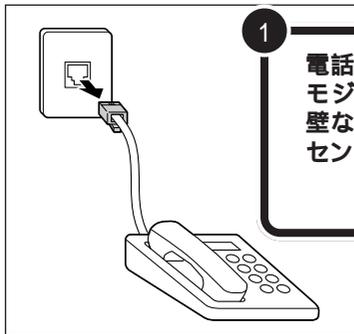
### 電話回線への接続のしかた



電話機のケーブルをモジュラーコンセントから外します。次に、添付のモジュラーケーブルを使って、本体とモジュラーコンセントを接続します。詳しくは、次ページの手順をご覧ください。

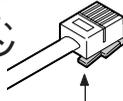
### ✓チェック!!

- ・ 本体を電話回線に接続するには、電話回線の接続口がモジュラーコンセントになっている必要があります。
- ・ 本体を電話回線に接続するためのケーブルは、2mの長さのものが添付されています。添付のモジュラーケーブルでは長さが足りない場合は、電器店などで必要な長さのモジュラーケーブルをお買い求めください。

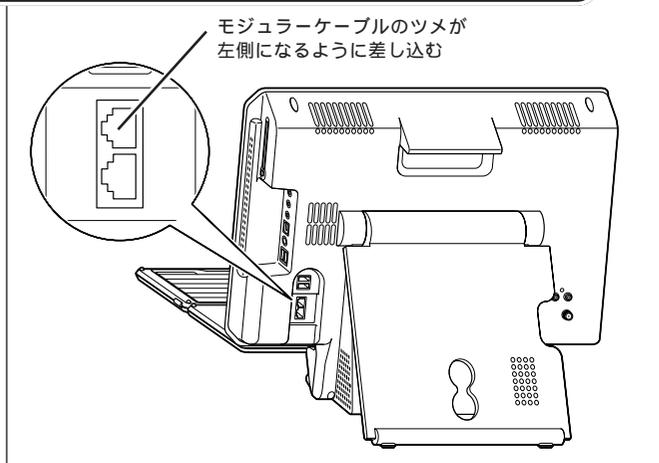


**1**  
**電話機につながっている  
 モジュラーケーブルを、  
 壁などのモジュラーコン  
 セントから外す**

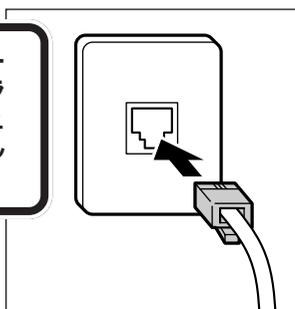
このツメを押さえて取り外す



**2**  
**添付のモジュラーケーブルのプラグを、向きに気をつ  
 けて、本体背面の□の付いたコネクタに差し込む**



**3**  
**添付のモジュラーケー  
 ブルのもう一方のプラ  
 グを壁などのモジュ  
 ラーコンセントに差し  
 込む**



モジュラーケーブル(電話線)のプラグには、上下のどちらかにツメが付いています。このツメを指でつまんで押さえるようにすると、簡単に抜くことができます。

**✓チェック!!**

電話機のモジュラーケーブルを取り外している間、電話機は使えなくなります。1つのモジュラーコンセントに電話機と本体の両方を接続したい場合は、別売の分岐アダプタが必要です(ただし、インターネットと電話の両方を同時に行うことはできません)。

**✓チェック!!**

品目マークの付いたコネクタと間違えないように注意してください。

**📖参照**

品目マークの付いたコネクタについて  
 このPARTの「LANコネクタ」  
 (p.70)

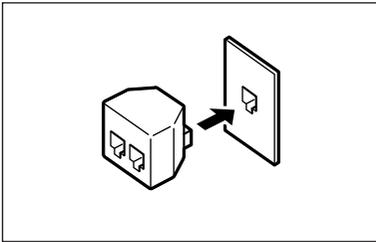
**✓チェック!!**

本体と電話回線をつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。うまく配線できないときは、お近くの電話工事店などにご相談ください。

### 電話機のつなぎ換えをしたくない場合は

本体を接続した電話回線で電話機を使いたい場合は、もう一度、モジュラーコンセントから本体のモジュラーケーブルを取り外して、電話機をつなぎ直す必要があります。

この場合は、市販の分岐アダプタを使うと、つなぎ換えの作業を省略できます。ただし、本体と電話機が同時に電話回線を使えるわけではありません。本体で電話回線を使っているときには、同じ分岐アダプタに接続した電話機などの受話器を外さないでください。本体の通信が妨害され、切断されることがあります。



モジュラーコンセントに分岐アダプタを取り付けて、分岐アダプタに本体と電話機のモジュラーケーブルを接続します。

### ✓チェック!!

- ・ 電話機などの種類によっては、分岐アダプタに接続すると、動作しない機種がありますので注意してください。
- ・ 分岐アダプタに接続する電話機などによっては、本体での通信が正常にできないことがあります。この場合は、次のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
  - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アースを接続する
  - 本体で通信するときには、電話機などを取り外す。
- ・ 分岐アダプタを使う場合、接続された電話機からのノイズにより、通信速度が低下することがあります。
- ・ 回線自動転換機能付き分岐アダプタを使うと、電話機での通話時に、ノイズが入ることがあります。これを防ぐには、ノイズ防止回路付きの回線自動転換機能付き分岐アダプタを使うことをおすすめします。



P A R T

# 4

## 本体内部に取り付ける

ここでは、本体内部にメモリを取り付ける方法を説明しています。

取り付け方が少しむずかしいので、手順をしっかりと読んでから作業してください。

# メモリ

本体のメモリを増やすときは、別売の「増設RAM(ラム)サブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。

## メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める( p.79 )

本体では、最大 1,024M バイトまで増やせます。



必要なものを準備する

必要な増設RAMサブボード等を準備します。



増設RAMサブボードを  
取り付ける( p.80 )

本体背面のメモリーカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらメモリーカバーを元に戻します。



メモリが増えたかどうか確認する( p.87 )

本体の電源を入れて、増やしたメモリが本体で使えるようになっているかどうか確認します。

## メモリの増やし方の例

本体には、増設RAMサブボード(DIMM:ディム)を差し込むコネクタ(スロット)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに256MバイトのRAMサブボードが付いています。

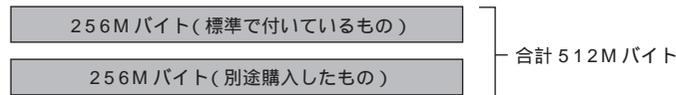
ここでは、標準で256MバイトのRAMサブボードが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。



空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で1,024Mバイト(512Mバイトの増設RAMサブボード×2枚)まで増やすことができます。

### ・例1: 512Mバイトにする場合

256Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。



### ・例2: 1,024Mバイト(最大)にする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、512Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。



## 本体で使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。

このパソコンでは、「DDR SDRAM DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設RAMサブボードを使うことをおすすめします。

### 増設RAMサブボードの種類

型名	メモリ容量
PK-UG-ME005	256Mバイト
PK-UG-ME006	512Mバイト

増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けられたメモリの総容量より少ない値になります。

### ✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準のRAMサブボードは大切に保管してください。

### ✓チェック!!

このパソコンでは、「SIMM(シム)」や、DDRが付かない「SDRAM DIMM」というタイプの増設RAMサブボードは使用できません。間違っても購入しないように注意してください。

## 増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

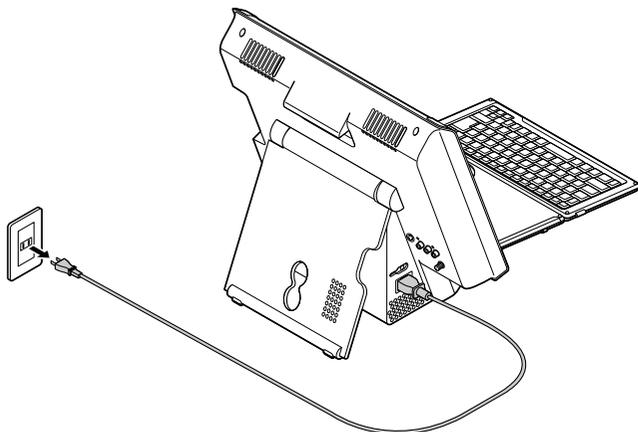
### ボードを取り扱うときの注意

増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

### 増設RAMサブボードの取り付け方

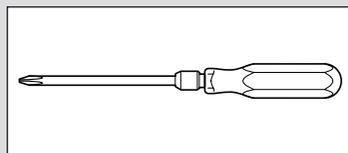
1 本体と、プリンタなど周辺機器の電源を切る

2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く



3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

メモリーカバーを外す際に、プラス(+ )ドライバーが必要になります。ネジ山にあった先端のものを用意してください。ネジを落としたりしないよう、ドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

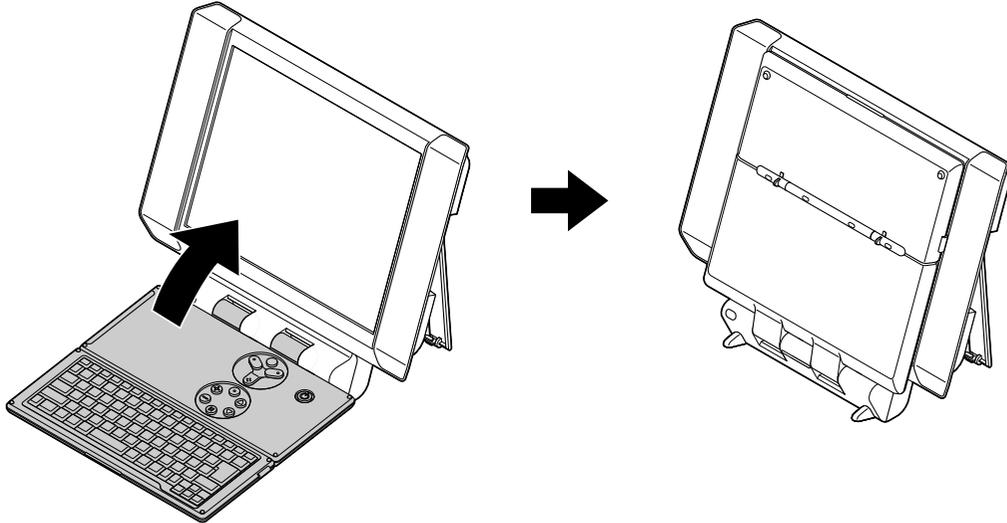


### ✓チェック!!

ここで取り外したケーブルは、メモリの増設が終わったあとで、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

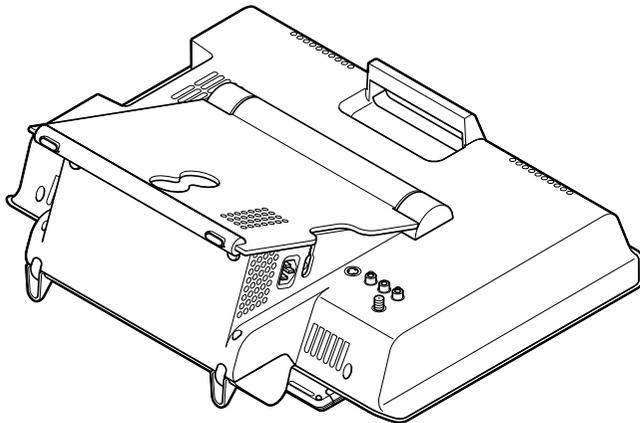
4

本体の操作パネルとキーボードを引き上げる



5

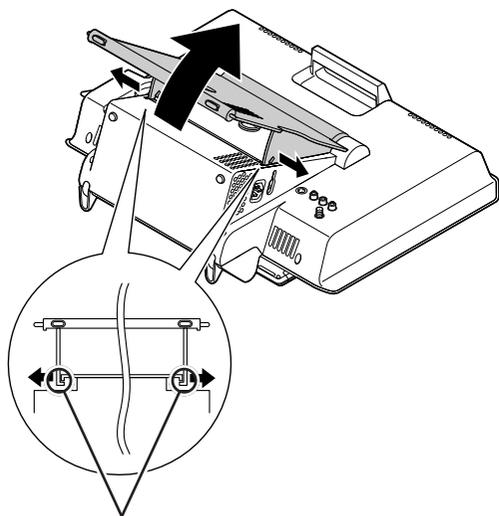
本体を下向きに伏せるように、静かに倒す



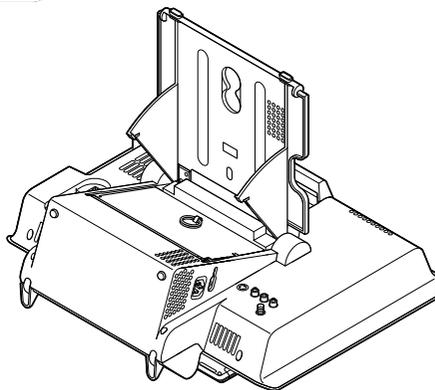
本体を倒すときは、本体を安定させるためや机やテーブルなどを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

6

スタンドの両端を軽くひろげてフックを外し、そのまま垂直になるまで持ち上げる

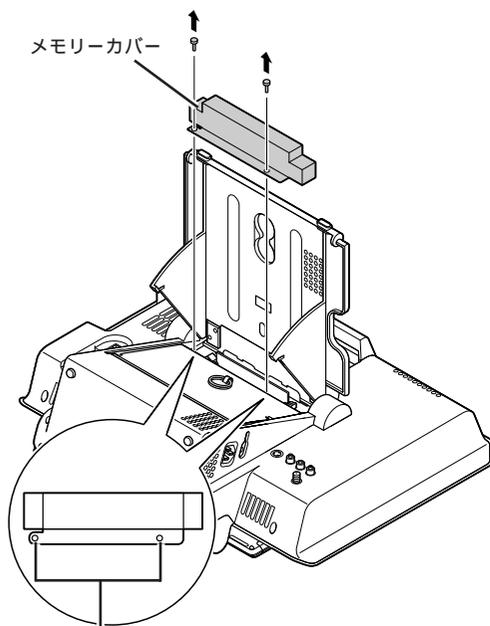


この2カ所のフックを外す



7

メモリーカバーを固定しているネジ2本を外し、メモリーカバーをまっすぐ上に持ち上げて取り外す

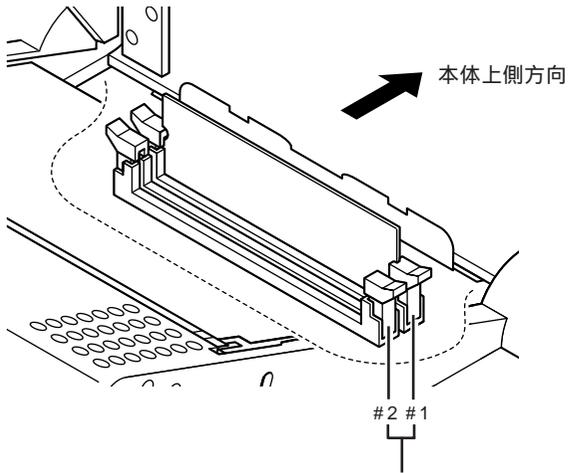


この2カ所のネジを外す

✓ **チェック!!**

外したネジをなくさないように、気をつけてください。

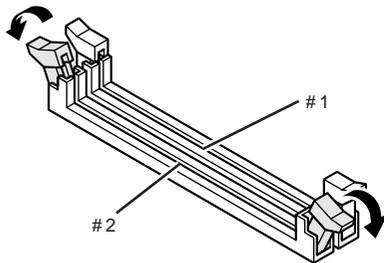
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設RAMサブボード用コネクタがあります。  
本体上側に近い方から、#1、#2と呼びます。

8

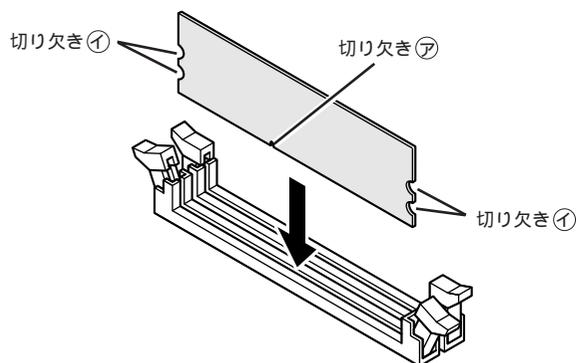
ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#1(本体上側に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。

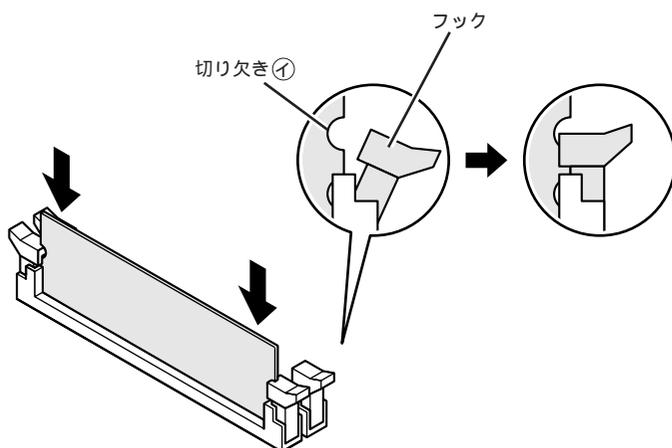
9

切り欠き ㊦ の方向とコネクタの溝の位置が合うように、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む

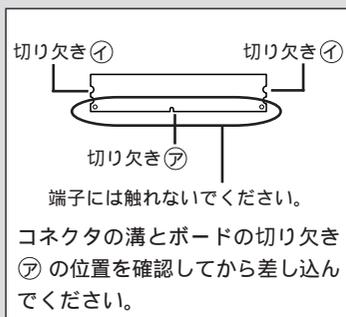


10

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き ㊧ に引っかかるまで、強く押し込む



増設RAMサブボードは、両手で持つてください。



### ✓チェック!!

- ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

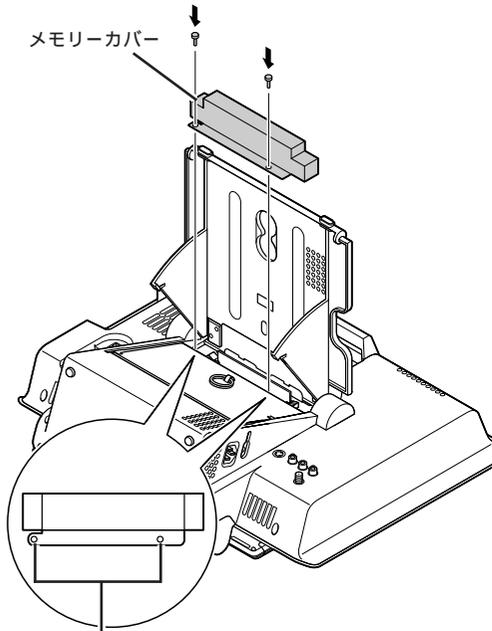
増設RAMサブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順9で差し込んだときに切り欠き ㊦ をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、その際に、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

### ✓チェック!!

- ・しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。
- ・空きコネクタのフックは、必ず内側に閉じてください。外側に開いていると、メモリーカバーを取り付けることができません。

11

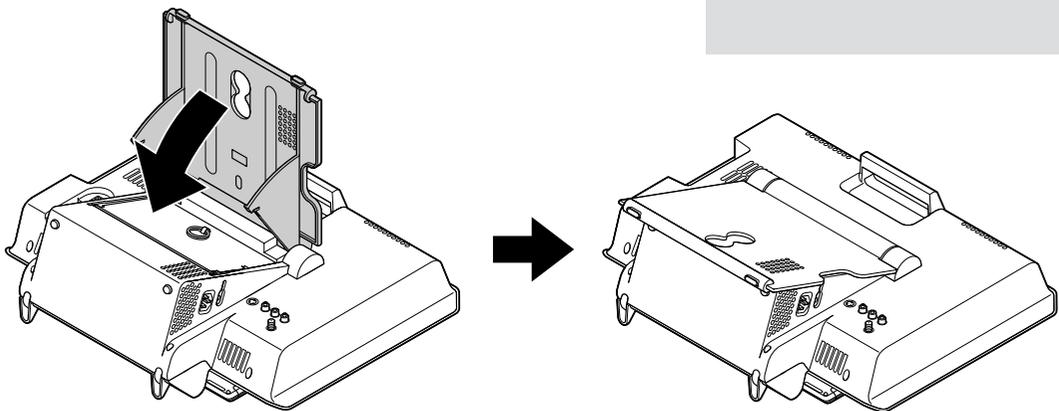
手順 7 で取り外したネジ 2 本で、メモリーカバーを元通りに取り付ける



この 2 カ所の穴にネジを元通り取り付ける

12

スタンドをゆっくり下げて、左右のフックを固定する



13

本体を持って静かに縦に置き、手順 3 で取り外したケーブルを元通りに取り付ける

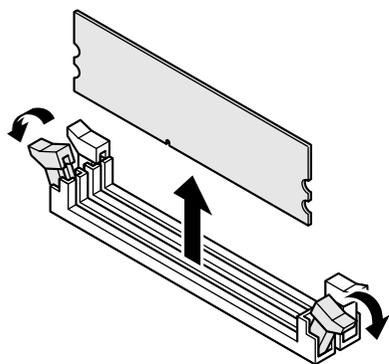
## RAM サブボードの取り外し方

1

「増設RAMサブボードの取り付け方」(p.80)の  
手順1～手順7の操作を行う

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっ  
くりと、ボードを垂直に引き抜く



3

「増設RAMサブボードの取り付け方」(p.80)の  
手順11～手順13の操作を行う

### ✓チェック!!

- ・電源ケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#1(本体上側に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。#1のRAMサブボードも同じ方法で取り外せます。

### ✓チェック!!

- ・フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- ・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、大切に保管してください。

## 増やしたメモリを確認する

本体の電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

1

デスクトップの「ばそガイド」アイコンをダブルクリックし、「ばそガイド」を起動する  
「ばそガイド」の画面が表示されます。

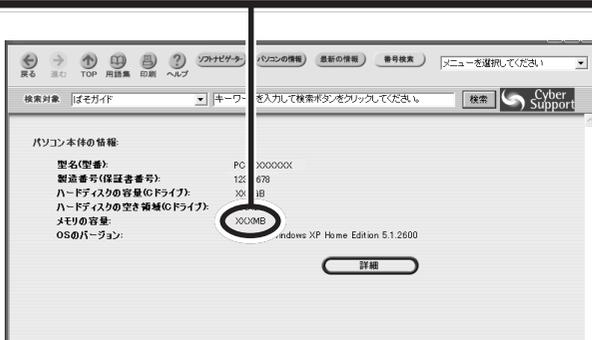
2

パソコンの情報 をクリックする

3

メモリ容量を確認する

増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されているのを確認してください。



### メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- ・メモリが正しく取り付けられているか？
- ・本体で使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？

### チェック!!

- ・ここでは、増やした後の全メモリ容量より数 M バイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。
- ・メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてから画面が表示されるまで時間がかかることがあります。
- ・メモリはWindows XPの「マイコンピュータ」からも確認できます。「スタート」-「マイコンピュータ」-「システム情報を表示する」をクリックして、「全般」タブで確認してください。



P A R T

# 5

## ちょっと詳しいパソコン情報

ここでは、CD/DVDドライブや省電力機能など、本体のハードウェアやソフトウェアに関する説明をしています。本体を使っていく上で知っていてほしい注意事項などが記載されています。

# CD/DVD ドライブ

ここでは、本体のCD/DVDドライブで使えるディスクの種類や取り扱うときの注意、ディスクのセットのしかたなどについて説明します。

## 使用できるディスク

本体のCD/DVDドライブで使えるディスクは、次のとおりです。

ディスク ドライブ	音楽CD、ビデオCD、 フォトCD、CD-ROM	CD-R、 CD-RW	DVD-ROM (DVD-Video)	DVD-R、 DVD-RW	DVD+R、 DVD+RW	DVD-RAM
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ					×	

読み込み・書き込み可

読み込みのみ可(書き込み不可)

× 読み込み・書き込み不可

:カートリッジから取り出せないタイプのDVD-RAMは利用できません。

それぞれのディスクの特徴は、次のとおりです。

規格	概要
CD-ROM	パソコンで見るための情報が入っているCDです。本体で使えるのは「Windows 95」, 「Windows 98」, 「Windows Me」, 「Windows 2000」, 「Windows XP」対応のCD-ROMで、「Macintosh専用」のものは使えません。
CD-R CD-RW	データを書き込むことができるCDです。
音楽CD	一般の音楽CDのことです。
ビデオCD	音声と動画が記録されたCDです。
フォトCD	写真画像が記録されたCDです。
DVD-ROM	CD-ROMの約7倍(片面一層の場合)の量のデータを記録できるディスクです。百科事典や地図が記録されているものなどがあります。
DVD-Video	映画やドキュメンタリーが高画質、高音質で記録されているDVDです。
DVD-R DVD-RW DVD+R DVD+RW DVD-RAM	データを書き込むことができるDVDです。

**✓チェック!**

- ・本体では、規格外のCD、DVDは使用できません。無理に使用した場合、再生作成が出来ないだけでなく、破損の原因となる場合があります。
  - 名刺型、星型等の円形でない、異形ディスク
  - 厚さが薄いDVD
  - 規格外に容量の大きな書き込み媒体 など
- また、コピーコントロールCDについても、正式なCD規格に準拠しない特殊なディスクであり、本体での再生及びHDDなどへの保存等の動作は保証しかねます。
- ・本体で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示すマークの入ったディスクを使用してください。
- ・CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。

**ディスクを取り扱うときの注意**

- ・信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- ・ディスクにラベルを貼ったり、傷を付けたりしないでください。また、ラベル面に文字を書く場合には、ペン先の柔らかいもの(フェルトペン等)で書くようにしてください。
- ・上に重いものを載せたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ・汚れたときは、やわらかい布で内側から外側に向けて拭いてください。
- ・清掃するときは、CD専用のスプレーをお使いください。
- ・ベンジン、シンナーなどで拭かないようにしてください。
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用は避けてください。
- ・直射日光のあたる場所や、温度の高い場所に保管しないでください。

**CD/DVDドライブを使用するときの注意**

- ・CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。
- ・ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因となります。
- ・CDやDVDをセットするときは、まずPCスタイルやビジュアルスタイルにしてください。ハーフスクリーンスタイルやオフスタイルにしてCDやDVDをセットしないでください。ハーフスクリーンスタイルやオフスタイルでは、セットしたCDやDVDに傷がつくことがあります。
- ・CD/DVDドライブ動作中にスタイルを変えないでください。CD/DVDドライブ動作中に操作パネルを動かすと、セットしたCDやDVDに傷がつくことがあります。

**📖参照**

ハーフスクリーンスタイル、オフスタイル、ビジュアルスタイルについて 『テレビ+PC使いこなしガイド』

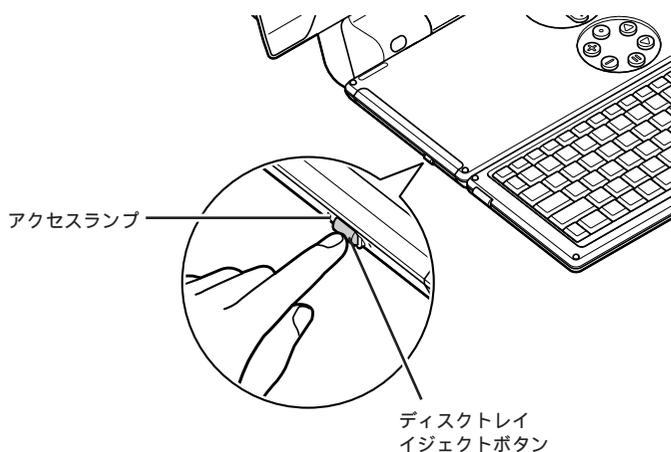
## ディスクのセットのしかたと取り出し方

### ディスクをセットする

1

#### ディスクトレイイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し飛び出します。



#### ✓チェック!!

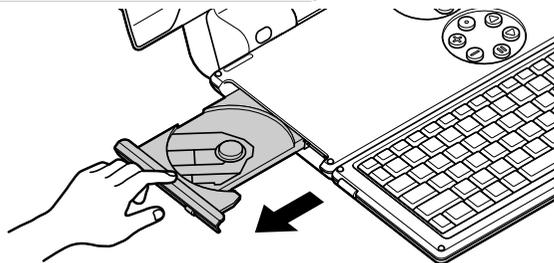
- ・ディスクトレイの出し入れは、パソコンの電源が入っているときにしかできません。
- ・停電やソフトの異常な動作などが原因で、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが飛び出さない場合に、ディスクトレイを無理に引き出そうとするとCD/DVDドライブが壊れることがあります。

#### 📖参照

ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合 『困ったときのQ&A』PART1の「その他」

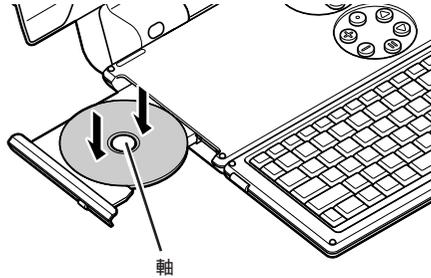
2

#### ディスクトレイを静かに引き出す



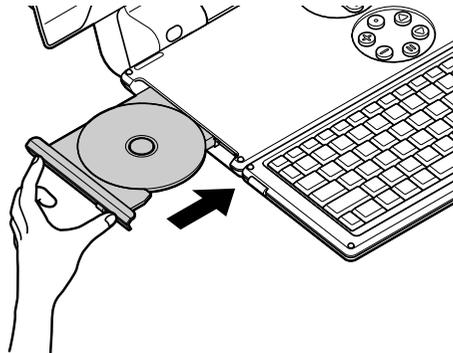
3

ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、軸にしっかりはめ込む



4

ディスクトレイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



## ディスクを取り出す

1

ディスクトレイジェクトボタンを押す

### ✓チェック!

- ・ディスクへのアクセス中(CD/DVDドライブアクセスランプ点灯時)は、ディスクを取り出さないでください。
- ・ディスクトレイの出し入れは、パソコンの電源が入っているときにしかできません。
- ・停電やソフトの異常な動作などが原因で、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが飛び出さない場合に、ディスクトレイを無理に引き出そうとするとCD/DVDドライブが壊れることがあります。

### 📖参照

ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合 『困ったときのQ&A』PART1の「その他」

2

ディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す

### ✓チェック!

ディスクトレイからディスクを取り出すときに、ディスクを落としたり、傷を付けたりしないように注意してください。

3

ディスクトレイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

## CD-R や CD-RW にデータを書き込む

### CD-R や CD-RW にデータを書き込むソフトについて

CD-R や CD-RW にデータを書き込むためには、専用のソフト(ライティングソフト)が必要です。

#### RecordNow DX

RecordNow DX には、次のような特徴があります。

- ・データを書き込むときに、RecordNow DX を起動させる必要がある
- ・いろいろな形式の CD をガイドに沿って簡単に作成できる
- ・作成した CD を他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- ・大きなデータをまとめて書き込むのに適している



「RecordNow DX」について 電子マニュアル 「パソコンガイド」-「アプリケーションの紹介と説明」-「50 音別目次」

### データを書き込む際の注意

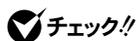
- ・データの書き込みには、本体に添付されているソフトをお使いください。
- ・書き込みを行う前には必ず、他のソフトを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。また、書き込み中に省電力状態にならないように設定してください。
- ・データ書き込み後は、データが正しく書き込まれているかを確認してください。
- ・書き込みに失敗した CD-R は再生できなくなります。書き損じによる CD-R の補償はできませんのでご注意ください。
- ・作成したディスクのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。



自動的に省電力状態にならないように設定する この PART の「省電力の設定を変える」(p.99)

## CD-R/RW メディアを他の CD-ROM ドライブで読み込むときの注意

CD/DVD ドライブでデータを記録したメディアを、他の CD-ROM ドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したソフトによっては注意が必要な場合があります。詳しくは、ソフトに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。また CD-R/RW メディアによっては、お使いの CD-ROM ドライブでは、読み込めない場合があります。マルチリード対応の CD-ROM ドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応の CD-ROM ドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。



お客様がオリジナルの CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD などの複製や改変を行う場合、オリジナルの CD 等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルの CD-ROM などの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

# 省電力機能

本体を使っていないときに、消費電力を節約する省電力機能について説明します。

## 省電力機能について

作業を中断したいことがあるたびに本体の電源を切ると、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかるなど手間が多いものです。本体には、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

### 電源の状態

本体の電源の状態には、次の4種類があります。

#### 電源が入っている状態

本体の電源を入れて、Windowsが起動している状態です。

#### 電源が切れている状態

Windowsを終了して、本体の電源を切った状態です。

#### 休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずに本体の電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了して本体の電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

#### スタンバイ状態

ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、本体の電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。

購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に「スタンバイ状態」になるように設定されています。

このような休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

省電力機能の特徴

	休止状態	スタンバイ状態
電力	スタンバイ状態に比べ消費しない	わずかに消費する
こんなときに便利	長時間作業を中断するとき	すこしの間作業を中断するとき

### ✓チェック!!

ソフトによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイ状態から復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。

## ランプ、ディスプレイの表示

パソコンの電源の状態によって、ランプやディスプレイの表示は次のように変化します。

電源の状態	入っている	切れている	休止状態	スタンバイ状態
[PC]ボタンのランプ	緑色に点灯する	消灯する	消灯する	オレンジ色に点灯する
電源スイッチのランプ	緑色に点灯する	消灯する *1		
ディスプレイの表示	表示される	何も表示されない *2		

\*1：テレビの電源が入っているときは、電源スイッチのランプは緑色に点灯します。

\*2：テレビの電源が入っているときは、ディスプレイにはテレビ画面が表示されます。

## 省電力機能を使う

### 休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできなかつたり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに作業前の内容を復元できなかつたり、本体が正しく動作しなかつたりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないでください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないでください。

#### ✓チェック!!

本体は、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。自動的にスタンバイ状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないPCカード(LANカードを含む)を使用しているとき
  - ・SCSIを使って機器を接続しているとき
  - ・プリンタが出力しているとき
  - ・音声や動画を再生しているとき
  - ・フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
  - ・休止状態やスタンバイ状態に対応していないソフトや周辺機器を使っているとき
  - ・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているとき
  - ・「プリンタの追加ウィザード」や「ハードウェアの追加ウィザード」を実行しているとき
  - ・モデムを使ってインターネットに接続しているとき
  - ・LANを使ってネットワークにアクセスしているとき
- また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中に、次の操作を行わないでください。
- ・フロッピーディスク、CD-ROMなどを入れ替える
  - ・PCカードの抜き差しをするなど、本体の環境を変更する

### 休止機能

#### 休止状態にする

省電力の設定を変更すると、電源スイッチでも休止状態にすることができます。

詳しくは、Windowsの「ヘルプとサポート」をご覧ください。

#### 休止状態にする前の状態に戻す

休止状態にする前の状態に戻すには、次の方法があります。

- ・操作パネルの【PC】ボタンを押す

このほかに、LANからのアクセス時に復帰させたり、タスクスケジューラを使って復帰させることもできます。

#### ✓チェック!!

操作パネルの【PC】ボタンを押しても元の状態に戻らないときは、ディスプレイが省電力状態になっていることがあります。その場合は、マウスを軽く動かしてください。

### スタンバイ機能

#### スタンバイ状態にする

購入時の状態では、スタンバイ状態にするには次の方法があります。

- ・「コンピュータの電源を切る」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ
  - 「スタート」-「終了オプション」をクリック
  - 「スタンバイ」をクリック

#### 一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする

本体は、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。

## スタンバイ状態にする前の状態に戻す(復帰する)

スタンバイ状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

- ・ 操作パネルの【PC】ボタンを押す
- ・ FAX モデムによるリング機能を使う  
パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このほかに、LAN からのアクセス時に復帰させたり、タスクスケジューラを使って復帰させることもできます。

### チェック!

操作パネルの【PC】ボタンを押しても元の状態に戻らないときは、ディスプレイが省電力状態になっていることがあります。その場合は、マウスを軽く動かしてください。

## 省電力機能を使うときの注意

### 休止状態にするときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続している場合は、休止状態にすると強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

### スタンバイ状態にするときの注意

- ・ 通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときは、必ず通信を終了させてからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD の再生中にスタンバイ状態にした場合、CD は再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前に CD の再生を止めてください。
- ・ スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。

### 休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意

- ・ 本体へ機器を取り付けたり、本体から機器を取り外したりしないでください。
- ・ スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。
  - 電源ケーブルが本体や AC コンセントから外れた
  - 停電が起きた
  - 電源スイッチを約 4 秒以上押し続けて、強制的に電源を切った

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windows が正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

## 省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

- ・ 復帰直後にソフトが正常に動作しない
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・ 操作パネルの【PC】ボタンを押しても復帰しない

## 休止状態からの復帰がうまくいかなかったときは

『困ったときのQ&A』PART1の「省電力機能」をご覧ください。

## スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき

電源スイッチを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOS セットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再設定してください。

また、コマンドプロンプトがアクティブのときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が復帰しないことがあります。この場合は【Alt】を押しながら【Tab】を押してタスクを切り替えることで正常に動作します。

## 省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。

### 自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

ソフトや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなソフトや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になる時間を変更することもできます。

「スタート」-「コントロールパネル」の順にクリック

「パフォーマンスとメンテナンス」をクリック

「電源オプション」をクリック

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「電源設定」タブをクリック

スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。

### チェック!!

休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」の  を  にしてください。

「OK」をクリック

### その他の設定を変更する

「電源オプション」では、次の設定も変更できます。

- ・ 省電力の設定ファイルの変更  
省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。
- ・ 電源スイッチの役割  
本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。
- ・ パスワードの設定  
スタンバイ状態からの復帰時にパスワードの入力が必要ないように設定できます

### 参照

「電源オプション」での設定 Windowsの「ヘルプとサポート」電子マニュアル  「ばそガイド」 「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「省電力機能の設定」

# BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティなど本機の使用環境を設定できます。

## 📖 参照

BIOS セットアップメニューの各項目について電子マニュアル「[ばそガイド](#)」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「BIOS 設定」

## ✔️ チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOS セットアップユーティリティ」と表示されます。

## BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > : BIOS セットアップメニュー起動、< F12 > : ネットワークブート」と表示されたらすぐに【F2】を押す「セットアップを起動しています...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

## ✔️ チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ					
メイン	詳細	セキュリティ	起動	終了	
		項目ヘルプ			
システム時刻:	[XX:XX:XX]	<Tab>キー、<Shift-T ab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。		メニューバー	
システム日付:	[XXXX/XX/XX]				
言語:	[日本語 (JP)]				
内蔵HDD	[XXXXXX]				パラメータ
内蔵CD/DVD	XXX				
システムメモリ:	640KB				
拡張メモリ:	x x KB				
CPUタイプ	XXX				
CPU速度	XXX				
BIOSバージョン	XXXXXX				
型番	XXX				
製造番号	XXX				
キーステータスバー					
F1 ヘルプ	項目の選択	F5/F6 値の変更	F9 デフォルトの設定		
Esc 終了	メニューの選択	Enter サブメニューの選択	F10 保存して終了		

## BIOS セットアップメニューの終了

### ■ 変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す

「セットアップ確認」画面が表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。メニューバーの「終了」でもBIOS セットアップメニューを終了することができます。

### ■ 起動前の設定のまま終了する場合

【 】【 】でメニューバーの「終了」を選ぶ

【 】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す

## ✔️ チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【 】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。BIOS セットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

## デフォルト値の設定

以下の手順で設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻すことができます。

【F9】を押す

「セットアップ確認」画面が表示されます。

【 】【 】で「はい」を選んで【Enter】を押す

すべての設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻します。メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

# 付 録

仕様一覧

# 仕様一覧

## 本体仕様一覧

### PC 機能

型名	VH300/7A		
型番	PC-VH3007A		
インストールOS・サポートOS	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1*1		
CPU	モバイル AMD Athlon™ 4 プロセッサ 1.1GHz		
クロック周波数	1.1GHz		
キャッシュメモリ	1次	128KB(CPU内蔵)	
	2次	256KB(CPU内蔵)	
バスクロック	システムバス	200MHz	
	メモリバス	266MHz	
チップセット	Silicon Integrated Systems社製 SiS740 / SiS962L		
メモリ (メインRAM)*2	標準容量	256MB(DDR SDRAM/DIMM、PC2100対応)*3	
	スロット数	2スロット(DIMMスロット)[空きスロット1]	
	最大容量	1GB*4	
表示機能	内蔵ディスプレイ	15型高輝度・TFTカラー液晶(高輝度エクセレントシャインビュー)	
	視野角	上下左右176°	
		表示解像度	XGA(最大1,024×768ドット表示)
	ビデオRAM	標準32MB(BIOS Setup Menuにて64MB選択可)*3	
	グラフィックアクセラレータ	Silicon Integrated Systems社製 SiS740に内蔵 [AGP対応]	
	解像度・表示色	640×480ドット	最大1,677万色
		800×600ドット	最大1,677万色
1,024×768ドット		最大1,677万色	
サウンド機能	音源 / サラウンド機能	PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI[XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応*5])、マイクノイズ除去機能、3Dボジョナルサウンド	
	スピーカ	内蔵ステレオスピーカ/3.5W + 3.5W	
	サウンドチップ	ADI社製 AD1981B搭載	
通信機能	FAXモデム*6	データ通信:最大56Kbps*7 V.90対応) / FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T対応	
入力装置	キーボード	本体一体型(キーピッチ19mm*8、キーストローク3.0mm)、JIS標準配列(87キー)、右コントロールキー付き	
	マウス	光センサーUSBミニマウス(スクロール機能付き)*9	
ハードディスクドライブ*10	約40GB*11(Ultra ATA-100)		
CD/DVDドライブ	マルチブレードドライブ(CD-R/RW with DVD-ROM)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き)		
	速度	DVD読出し:最大8倍速、CD読出し:最大24倍速、CD-R書込み:最大24倍速、CD-RW書換え:最大10倍速*12	
スロット	PCカード	Type x1、PC Card Standard準拠、CardBus対応	
PCインターフェイス	USB	コネクタ4ピン×4*13(USB 2.0)	
	PS/2	ミニDIN6ピン×1	
	FAXモデム	RJ11モジュラコネクタ×1	
	LAN	RJ45コネクタ×1	
サウンド関連 インターフェイス	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角形×1	
	ライン入力	ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス 10k、入力レベル 最大1Vrms)	
	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用(出力レベル 1Vrms、出力インピーダンス 47k)	
	マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 10k、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 3.7V)	
	ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(対応ヘッドフォンインピーダンス 16 -100「推奨32」、出力電力 5mW/32)	
電源	AC100V±10%、50/60Hz		
消費電力*14	標準	約115W	
	最大	135W	
エネルギー消費効率*14	Q区分 0.0075		

型名		VH300/7A
電波障害対策		VCCI ClassB
温湿度条件		10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)
外形寸法	本体(突起部除く)	440(W)×457～555(D)×356～372(H)mm(本体の角度により奥行き、高さが変わります)
質量	本体	約8.9kg
	マウス	約65g
主な添付品		マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン(TV用)、リモコン用電池(コイン型リチウム電池:1個)

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、ソフトによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- \* 1 : 添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のMicrosoft® Windows® XP Home Edition パッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professional パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- \* 2 : PC2100対応-DDR266MHzメモリのみ対応しています。
- \* 3 : ビデオRAMはメモリ(メインRAM)を使用します。
- \* 4 : 増設RAMサブボード(PC2100対応-DDR266MHzメモリ)[512MB]を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-ME005(256MB)、PK-UG-ME006(512MB)を推奨します。VALUESTAR HにPK-UG-ME005、PK-UG-ME006を使用される場合、PC2100にて動作します。
- \* 5 : DLSは「Downloadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
- \* 6 : 回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- \* 7 : 最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
- \* 8 : キーボードのキーの横方向の間隔です。キーの中心から隣のキーの中心までの長さです(一部キーピッチが短くなっている部分があります)。
- \* 9 : 本体のUSBポートに接続します。
- \* 10 : 1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
- \* 11 : Windows®のシステムからは、容量がCドライブ:約27GB、Dドライブ:約3.7GB、残り:再セットアップ用として認識されます。
- \* 12 : Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
- \* 13 : 1ポートは光センサーUSBミニマウスを接続します。
- \* 14 : PC機能のみご使用時の値です。

## TV 機能

型名		VH300/7A
型番		PC-VH3007A
ディスプレイ	画面サイズ	15型(高輝度エクセレントシャインビュー)
	視野角	上下左右176°
	表示解像度	XGA(最大1,024×768ドット表示)
	最大発色数	8bit×3入力により最大約1677万色同時表示
	表示寸法	アクティブ表示エリア:304(W)×228(H)mm、対角:380mm
	画素ピッチ	0.297mm
高画質機能		ゴーストリデューサ、3次元Y/C分離、デジタルノイズリダクション、タイムベースコレクタ
お好み画質		ノーマル、ムービー、ダイナミック、ユーザー1、ユーザー2を選択可能
2画面機能		PC画面上にTV子画面、もしくはTV画面上にPC子画面を表示可能
テレビチューナー		音声多重対応、受信チャンネル:VHF(1~12ch)、UHF(13~62ch)
リモコン(TV用)		赤外線リモコン*1
	外形寸法	54(W)×124(D)×6(H)mm
	質量	約31g*2
TVインターフェース	TVアンテナ入力	F型同軸×1
	映像入力/音声入力	Sビデオ端子×1*3、コンポジットビデオ端子×1*3、音声入力端子(L/R)×1
消費電力*4		約70W
待機時消費電力*4		約6W
備考		内蔵ディスプレイ、スピーカ、電源、電波障害対策、温湿度条件、外形寸法、質量についてはPC機能の仕様と同等です。

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、ソフトによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- \* 1 : リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがコイン型リチウム電池で約6ヶ月使用可能です(1日あたり50回のボタン操作を行った場合)。また、使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約3mです。
- \* 2 : 電池の質量は含まれておりません。
- \* 3 : Sビデオ端子、コンポジットビデオ端子の利用は排他になります。また、表示の切替はOSDメニュー画面より行います。
- \* 4 : TV機能のみご使用時の値です。

## その他のご注意

### [ 著作権に関するご注意について ]

- ・ お客様が複製元の CD-ROM や DVD-ROM などの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
- ・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製等に関する注意事項にしたがってください。
- ・ コピーコントロール CD など一部の音楽 CD では、再生や CD 作成ができない場合があります。

### [ CD/DVD の読み込み / 書き込みについて ]

- ・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
- ・ 12 cm CD、DVD 以外は使用できません。ハート型などの特殊形状をした CD は故障の原因となりますので使用しないでください。
- ・ 設定した書き込み、書き換え速度を実現するためには、書き込み、書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
- ・ 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。NTSC のみ対応しております。Region コード「2」以外の DVD ビデオの再生は行えません。再生する DVD ディスクおよびビデオ CD の種類によってはコマ落ちする場合があります。リニア PCM (96 kHz/24 bit) で記録されている 20 kHz 以上の音声信号は再生できません。DVD レコーダで記録された DVD で、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合は DVD レコーダの取扱説明書などをご覧ください。
- ・ ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。

### [ TV 視聴について ]

- ・ 本製品は CATV の一部周波数にも対応しておりますが、ケーブルテレビ会社によりサービス内容に違いがあるため、接続に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。

### [ 周辺機器接続について ]

- ・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- ・ 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット <http://121ware.com/personal/> (各シリーズページ 「接続情報」) をご覧ください。
- ・ USB 1.1 対応の周辺機器も利用できます。USB 2.0 で動作するには USB 2.0 対応の周辺機器が必要です。動作確認済み機種についてはインターネット <http://121ware.com/personal/> (各シリーズページ 「接続情報」) をご覧ください。
- ・ 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は 48 kHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS (シリアルコピーマネジメントシステム) に準拠した信号を出力します。

## FAX モデム仕様一覧

項目	規格	
適用回線	加入電話回線	
ダイヤル方式	パルスダイヤル( 10/20PPS ) トーンダイヤル( DTMF )	
FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
	同期方式	半2重調歩同期方式
	通信規格 *1	ITU-T V.17:14,400 / 12,000 / 9,600 / 7,200 bps V.29:9,600 / 7,200 bps V.27ter:4,800 / 2,400 bps V.21ch2:300 bps
	送信レベル	-10 ~ -15dBm( 出荷時 -15dBm )
	受信レベル	-10 ~ -40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド( CLASS 1 )
	同期方式	全2重調歩同期方式
データモデム機能	通信規格 *1	ITU-T V.90:56,000 ~ 28,000 bps *2 V.34:33,600 ~ 2,400 bps V.32bis:14,400 ~ 4,800 bps V.32:9,600 ~ 4,800 bps V.22bis:2,400 / 1,200 bps V.22:1,200 / 600 bps V.21:300 bps
	エラー訂正	ITU-T V.42( LAPM ) MNP class 4
	データ圧縮	ITU-T V.42 bis MNP class 5
	送信レベル	-10 ~ -15dBm( 出荷時 -15dBm )
	受信レベル	-10 ~ -40dBm
	制御コマンド	Hayes ATコマンド準拠 *3

\*1:回線状態によっては通信速度が変わる場合があります。

\*2:送信時は 33,600 ~ 2,400 bpsになります。

\*3:ATコマンドについては、電子マニュアル「ばそガイド」-「パソコンの設定」-「パソコンの機能」-「ATコマンド」をご覧ください。

## LAN 仕様一覧

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長*	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

\*リピータの台数など、条件によって異なります。



# 索 引

## 英数字

121ware .....	39
AC電源コネクタ（入力）（AC100V） .....	7
ADSL .....	35, 38, 70
BIOSセットアップメニュー .....	100
CardBus .....	55
CATV .....	35, 38, 70
CATVホームターミナル .....	68
CD/DVDドライブ .....	7, 10, 90
CD/DVDドライブアクセスランプ .....	7
CD-R .....	90, 95
CD-ROM .....	90
CD-RW .....	90, 95
【channel】ボタン .....	10
DDR SDRAM DIMM .....	79
DIMM .....	79
DVD-R .....	90
DVD-RAM .....	90
DVD-ROM .....	90
DVD-RW .....	90
DVD-Video .....	90
FAXモデム仕様一覧 .....	106
Fnキー .....	12
ISDN .....	38
LANケーブル .....	71
LANコネクタ .....	4, 70
LAN仕様一覧 .....	107
LINE IN .....	36, 67
LINE OUT .....	36
MDプレーヤ .....	34
MIDI音源 .....	62
【mute】ボタン .....	10
NECオンラインお客様登録 .....	18
Nキーロールオーバー .....	12
PC Card Standard .....	55
【PC】ボタン .....	9
PCカード .....	55
PCカードイジェクトボタン .....	5
PCカードスロット .....	5, 56
PCカードの設定 .....	58
PCポータル .....	19
【PIP】ボタン .....	9
【Program】ボタン .....	9

PS/2マウスコネクタ .....	5
RecordNow DX .....	95
S端子入力 .....	4, 69
【TV/PC】ランプ .....	9
【TV】ボタン .....	10
USB .....	41
USBコネクタ .....	4, 6, 48
USBハブ .....	49
VHF/UHFアンテナ端子 .....	4
【visual】ボタン .....	10
【volume】ボタン .....	10
WAVE音源 .....	62
Windowsキー .....	12

## ア行

アース端子 .....	7
アイコン .....	18
アプリケーションキー .....	12
イメージスキャナ .....	35
映像入力端子 .....	68
オーディオ機器 .....	36, 63, 64, 67
音楽CD .....	90
音声出力端子 .....	36
音声入力端子 .....	4, 5, 36, 64, 69
音量の調節 .....	65, 67

## カ行

キーの名称 .....	11
キーのロック .....	12
キーボード .....	3, 11
キーボードロック .....	6, 8
キャップスロックキーランプ .....	10
休止状態 .....	96
クイックメニュー .....	30
携帯電話 .....	37
ケーブルテレビ .....	38, 70
ごみ箱 .....	18
コントロールパネル .....	21
コンボジットビデオ入力端子 .....	4

## サ行

周辺機器の取り外し .....	45
終了オプション .....	21

仕様一覧	102
省電力機能	17, 96
スクロールロックキーランプ	10
スタート	18, 20
スタンド	2, 4, 6, 7
スタンバイ状態	96
スピーカ	2
セルフパワーデバイス	53
操作パネル	3, 9
増設RAMサブボード	79, 80
ソフトナビゲーター	21, 28

## タ行

ダイヤルアップ	73
タスクバー	18
通知領域	19
通風孔	4, 5, 7
ディスクトレイジェクトボタン	8
ディスプレイ	2
デジタルカメラ	34, 56
デジタル署名	44
デスクトップ	18
電源スイッチ	2, 10
電源の状態	96
電源ランプ	2, 10
電源を入れる	13
電源を切る	15
電話回線	73
電話回線用モジュラーコネクタ	4
ドライバ	42, 43

## ナ行

ニューメリックロックキーランプ	10
ネットワーク	70
ネットワークの設定	72

## ハ行

ハードディスクアクセスランプ	10
ハイパワーデバイス	53
ハウリング	65
ばそガイド	18, 22
パソコンのいろは	23
ハブ	70

## 光デジタルオーディオ (S/PDIF)

出力端子	5, 62
ビデオCD	90
ビデオデッキ	36, 68
フォトCD	90
プリンタ	34
ブロードバンド	70
フロッピーディスクユニット	35
ヘッドフォン端子	5, 36, 65, 67
ヘルプとサポート	21
本体仕様一覧	102

## マ行

マイクロフォン端子	5, 65
マイコンピュータ	21
マイドキュメント	21
メモリ	37, 78
メモリ容量	87
モジュラーケーブル	73
モジュラーコネクタ	4, 73

## ヤ・ラ・ワ行

ユーザ登録	18
ランプ	96
リモコン受光部	9
リング機能	98
ローパワーデバイス	53
ワイヤレスLAN	37, 70
ワイヤレスLANアダプタ	37

# MEMO

# MEMO

# MEMO

『パソコン機能ガイド』と合わせて使う

# 電子マニュアル『ばそガイド』

「ばそガイド」はパソコンの画面で見るマニュアル。パソコンに関する設定や、アプリケーションの使い方など、役立つ情報がつまっています。このマニュアルと合わせて使って、上手に情報を手に入れましょう。デスクトップにあるをダブルクリックして表示できます。

このパソコンの型名や製造番号、メモリの容量など、ハードウェアに関する詳しい情報を表示します。周辺機器を買うときは、画面を印刷して持っていても役に立ちます。

ネットワークの設定、省電力の設定など、パソコンに関する設定について説明しています。BIOSの情報などもここで。

調べたいキーワードを入力して、「検索」をクリックします。

このパソコンに添付されている各アプリケーションの紹介、使い方を説明しています。



サポート窓口についてはこちら。

周辺機器を接続したけどうまく動かない、設定がうまくできない... 困ったときはここを参考に。



# パソコン機能ガイド

## VALUE STAR

このマニュアルは再生紙  
(古紙率:表紙50%、本文100%)  
を使用しています。

初版 2003年11月

NEC

P

853-810601-209-A

Printed in Japan

